令和６年度　研究紀要

きらめき

～第６号～

（本校の校章）

大阪府立摂津支援学校

はじめに

研究紀要「きらめき（第６号)」の刊行にあたり、一言ご挨拶申しあげます。

本年度、ここに、摂津支援学校研究紀要「きらめき」を発刊できますことを大変喜ばしく思います。本校は、皆様ご存じの通り、大阪府立の知的障がい支援学校でございます。平成 25 年度に府立鳥飼高等学校の跡地に開校以来、創立 12 年めを迎える学校です。これまで、地域の知的障がい教育のセンター的役割を果たすべく、教育実践に取組んでまいりました。その中でも、教育研究は、日頃より大きな使命の一つと捉え、その実践を広く府内の皆様に発信できればと考えているところでございます。本校の児童・生徒のみならず、地域に居住されている支援の必要な児童・生徒の社会的自立へ向けた教育、また、本校児童・生徒が地域で生き生きと生活できる土壌を醸すのが本校の大きな使命であると認識しております。

さて、令和５年度、６年度においては「自己肯定感を高める教育」をスローガンに研究および実践を行ってまいりました。スローガンの設定理由の一つとして、コロナウイルス感染症にともなう学習活動やコミュニケーションの機会の制限により、児童生徒の活動が制限され、主体的に生活する機会が減少したことによる「自己肯定感の低下」を学校の課題として捉えたからです。『そのままの自分を認め受け入れ、自分を尊重し、自己価値を感じて自らの全存在を肯定する「自己肯定感」の感覚は、「自分は大切な存在だ」「自分はかけがえのない存在」だと思える心の状態』（日本セルフエスティーム普及協会より）が、現在の摂津支援学校の児童生徒にはより必要だと考えました。

この「きらめき（第６号)」は、これまで以上に「実践報告」が充実しています。「自己肯定感を高める教育」をキーワードとした取組みを中心に、教員一人ひとりが大切にしてきた実践が満載です。まさに「児童生徒・教員の成長を綴った宝物」であると思います。本紀要は本校の教育研究の一部ではありますが、ご一読いただき、忌憚のないご意見をお聞かせいただけましたら幸いです。

最後になりましたが、摂津支援学校においては、今後も、この地域の各支援学校や関係諸機関の皆さまとの連携・協力体制を整えながら、支援教育の更なる充実と発展をめざしたいと考えております。今年度も、地域をはじめ関係諸機関の皆さま、保護者の皆さま、地域校の皆さまには多大なご協力とご支援をいただきましたことに、お礼申しあげます。これからも、摂津支援学校と知的障がい教育に温かいご理解とご支援をお願いいたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

令和７年３月

摂津支援学校　校長　村上　哲也

目　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１

目　次　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２

Ⅰ本校の概要
本校の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４
小学部の教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
中学部の教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１０
高等部の教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１３

Ⅱ研究・実践の報告・発表①
今年度の研究テーマについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８
学部事例検討会について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　２２
自立活動の取り組みにつながる
　　ファシリテーションボールメソッド（FBM）とその活用について・・・　２５
授業力向上プロジェクト―シラバス作成等の５か年計画―・・・・・・・・・　３１
「大阪関西万博プロジェクト」
　―「いのち輝く未来社会のデザイン」と連動した学習―・・・・・・・・・　３７

Ⅲ研究・実践の報告・発表②
学校コンサルテーション事業の取り組み
　強度行動障がいコンサルテーション　事例報告・・・・・・・・・・・・・　４４

Ⅳ講演会記録
自己肯定感を高める指導・支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５４
　　梅花女子大学　伊丹昌一　教授
子どもの自己肯定感を育む教育実践・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６２
　　梅花女子大学　伊丹昌一　教授

おわりに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６８

Ⅰ　本校の概要

本校の概要

１　教育方針

・子どもたち一人ひとりの人権を尊重し、個々の特性や発達の状況を十分に考慮しながら寄り添い、「ほめて育てる教育」を行う。

・子どもたち一人ひとりがもっている可能性を信じて、「継続は力なり」の教育実践を行う。

・達成感や満足感など自己肯定感が育まれるように、子どもたち一人ひとりがスモールステップで成長できる教育実践を行う。

２　めざす学校像

・笑顔きらめく 元気な学校
　児童生徒の人権に配慮し、教員の人権意識を高め、人権教育を推進する。

・君の得意を見つけ　伸ばそういいところ
　「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」に基づき、保護者や関係機関と連携して教育活動を展開する。
　児童生徒の「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の３観点をバランスよく育成し「生きる力」を育てる。

・つながる心 つなげよう未来へ
　学校間交流および居住地校交流等を通して、地域との交流を図るとともに、障がい者理解を広げる。
　児童生徒の社会的･職業的自立に向け、小学部段階から発達に応じたキャリア教育を進める。
　成年年齢が１８歳へ引き下げられたことを踏まえ、主権者としての義務と責任について理解し、社会に貢献する人材を育成する。

　これらを三本柱として教職員・保護者・地域の方々がひとつになり、すべての児童生徒を、社会で自立して生きる人として育てる学校をめざします。

３　児童生徒数及び学級数（R6.5.1）

学部	学年	学級数			児童生徒数				
		一般	重複	小計	一般	重複	男	女	小計
小学部	1年	3	10	28	13	2	10	5	15
	2年	2			12	2	7	7	14
	3年	3			13	6	13	6	19
	4年	3			14	4	11	7	18
	5年	4			21	5	17	9	26
	6年	3			13	6	10	9	19
中学部	1年	4	9	25	22	8	23	7	30
	2年	7			41	5	29	17	46
	3年	5			25	10	24	11	35
高等部	1年	4	6	20	29	5	24	10	34
	2年	5			33	6	19	20	39
	3年	5			33	6	24	15	39
総　計		48	25	73	269	65	211	123	334

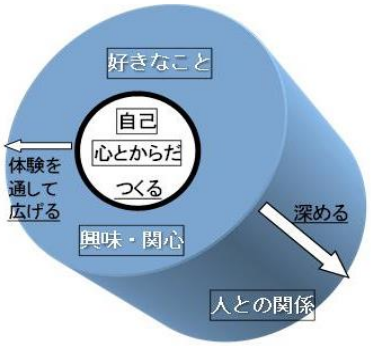
4　市別児童生徒数（R6.5.1）

		茨木市	吹田市	摂津市	高槻市	合計
小学部	1年	5	1	7	2	15
	2年	2	6	3	3	14
	3年	4	5	6	4	19
	4年	7	3	4	4	18
	5年	2	6	10	8	26
	6年	6	7	5	1	19
	合計	26	28	35	22	111
中学部	1年	8	7	7	8	30
	2年	6	12	15	13	46
	3年	9	10	4	12	35
	合計	23	29	26	33	111
高等部	1年		10	11	13	34
	2年		13	15	11	39
	3年		12	13	14	39
	合計		35	39	38	112
全校		51	92	100	93	334

小学部の教育

【小学部の目標】

・元気な心とからだをつくる
・様々な経験を通して、興味・関心を広げる
・人との関わりを深める



低学年目標	・生活リズムを整え、丈夫なからだをつくる。 ・学校生活を通して、自分でできることを増やす。 ・楽しいことや好きなことを見つけて、興味や関心を広げる。 ・先生や友だちを意識して、一緒に活動する。 ・自分の気持ちを表現して、相手に伝える。
高学年目標	・主体的にからだを動かして、体力をつける。 ・積み重ねた経験を生かして、色々なことに挑戦する。 ・自分で考えたり、選んだりする力をつける。 ・ルールや決まりを守って、集団行動をする。 ・相手の気持ちを考えて、行動する。

【令和６年度　小学部児童数・クラス数】

R６年５月１日現在

学年	男子	女子	計	クラス数	担任数※
１年	１０	5	１５	3	7
２年	7	7	１４	2	6
３年	１３	6	１９	3	9
４年	１１	7	１８	3	8
５年	１７	9	２６	4	１１
６年	１０	9	１９	3	8
計	６８	４３	１１１	１８	４９

※他に非常勤の教員や部主事・首席が入っています。

【各教科・領域のねらい、週単位時間数】

教科等名	各領域・教科の指導の重点	年間授業時数計画（週時数）						
		学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
生活	基本的生活習慣を身につける。 集団活動に参加する力を養う。 遊びを通してルールを理解する。 自分自身や身近な人間に関心をもつ。 日常生活のきまりを理解し行動する。 金銭に関する知識を得る。 自然や生き物に興味・関心をもつ。 社会の仕組みや様子に興味・関心をもつ。		12	13	15	12	13	13
国語 算数	意思や感情を身振り、カード、ことばで表現する。 絵や文字に親しみ、絵本などを楽しむ。 聞く力、話す力、読む力を伸ばす。 形やバランスに気をつけて書く力を伸ばす。 丸や四角など様々な形に親しむ。 数えたり、数字を使ったりすることに慣れる。 大きさや長さの違いを計測したり、比較したりする。 分類したり、対応させたりする力の基礎を育む。 金銭の扱いに慣れる。		3	3	3	4	4	4
音楽	やさしい歌の一部や全部を楽しく歌う。 歌やリズムに合わせて身体を動かし、リズム感を養う。 音の鳴るおもちゃや打楽器などを使ってリズム遊びをする。 いろいろな楽器に触れたり、演奏したりする。		2	2	2	2	2	2
図工	作ったり、描いたりすることに興味を持つ。 いろいろな道具や素材を使い、造形活動を楽しむ。 いろいろな素材に触れ、それらの感触を楽しむ。 様々な道具に親しみ、手指の巧緻性を高める。		2	2	2	2	2	2
体育	健康やからだの変化について知り、健康な生活に必要な知識を身につける。 からだを動かす楽しさを知り、体力の向上をめざす。 歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動を身につけ、全身の動きの協調性を高める。 簡単なきまりを守って、友だちと安全に運動する。 簡単なルールのあるゲームを楽しみ、集団で活動する楽しさを知る。		2	2	2	4	4	4

道　徳	よいことと悪いことの区別をし、健康や安全に気を付けて生活する。 友だちと仲よくし、気持ちのよいあいさつを心掛ける。 約束や社会の決まりを守る。 生命や身近な自然を大切にする。	1	1	1	1	1	1
特別活動	集団活動にふさわしい行動の仕方を身につける。 互いのよさや可能性を発揮しながら、話し合いや意思決定ができる。 人間関係や自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする。	1	1	1	1	2	2
自立活動	日常生活における習慣、ルールを身につける。 あいさつなど対人関係、社会性の基礎を身につける。 健康に留意したからだをつくる。 基本的生活習慣を身につける。	5	5	5	5	5	5
総計		28	29	31	31	33	33

【指導グループの集団】

＜基礎生活集団＞　　学年・クラス（同年齢集団）

＜学習集団＞　　生活　：　学年
合同生活　：　高学年（４～６年生）
ことば・かず　：　１年生：学年内
２・３年生：縦割り
高学年（４～６年生）：縦割り
音楽　：　学年
図工　：　学年
体育　：　学年／低学年（１～３年生）／高学年（４～６年生）
特別活動　：　５・６年生：縦割り
道徳　：　学年

【学部行事】　4月－新入生歓迎会　5月－校内遠足（1年）
6月－校外学習（2～5年）、交通安全教室、宿泊学習（5年）
7月－七夕集会
9月、10月－遠足（1～4年）、校外学習（5～6年）、修学旅行（6年）
12月－学部発表会　1月、2月－校外学習、まめまき大会
3月－6年生を送る会

中学部の教育

【中学部の目標】

・ゆたかな心と　すこやかなからだを育てる
・新しいことに チャレンジする
・いろいろな仲間と つながる

【中学部　学習指導の方針】

◎いずれ旅立つ社会にむけての準備として、次の３つの力を設定し育成する。

・日常生活において自立する力　：　日常生活能力の確立、基本的生活習慣の取得
健康な心とからだづくり
コミュニケーション力、基礎学力の充実

・将来へのイメージを持って力強く生きようとする力　：　さまざまな選択肢がある中で「やってみよう！」という心を持ち、未来へむかおうとする力

・自分を認め、他者とつながる力：　好きなことを増やす、興味・関心を広げる
自己認知を深める、仲間との信頼関係を築く等、
自分と他者を大切にする力

◎３つの力の育成のための取り組み

①自立活動の充実

・健康の保持・・・・・・・大人に変わる心とからだのための体力の向上や食育の指導、および性教育の充実

・心理的な安定・・・・・・日々の学校生活や授業等に見通しを持って取り組めるように、ICT 機器を使用した視覚支援や、それぞれの生徒にわかりやすいサイン・言葉かけ等の工夫

・人間関係の形成・・・・・友だちや教員、身近な人との信頼関係を確立できるように、集団参加の場面の設定・指導

・環境の把握・・・・・・・見通しを持って活動に参加できるように、日々の活動内容を全体や個別に明確に提示

・身体の動き・・・・・・・福祉医療人材（ST,OT,PT 等）を活用

・コミュニケーション・・・自分の気持ちや要求を伝える方法の提案と伝わることの経験を重ね自信につなげる指導

②個々の課題に応じた学習グループの編成

生徒一人ひとりの興味・関心を広げ、基礎学力の充実をめざすため、しっかりとした実態把握を行い、学習グループを編成します。

③キャリア

毎日の生活のなかでの「あいさつ」を習慣づけることや、教室や廊下、トイレなど責任を持って自分たちが使用する場所の「清掃」を行うライフキャリアの育成をします。喫茶実習や作品販売を通して、基本的な金銭の扱い方や人とのコミュニケーションのとり方を学ぶワークキャリアの育成をします。

④交流学習

地域の中学校との授業交流や、本校の他学年・他学部との交流学習を行うことで仲間とつながる大切さを学びます。また、地域のイベントに参加したり外部講師を招いたりして、「自分」と「自分の周りの世界」との関わりを知ることや、「ほんものに触れる」体験をします。近い将来の進路についてのイメージを広げることがねらいです。

⑤職業

窯業（陶器の製品づくり）、木工、布加工、園芸の４科目を開講しています。
「働く」ことの意識を芽生えさせることがねらいです。
できあがった製品は、地域イベントなどで販売することもあります。

⑥特別の教科道徳

学年でグループにわかれ、道徳についての学習を行います。
自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを理解したりできるような学習を行います。また、言葉遣いや挨拶、社会のマナー等も学習します。

【令和６年度　中学部生徒数・クラス数】

令和６年５月１日現在

学　年	男　子	女　子	計	クラス数	教員数　※
１年	２３	７	３０	４	１２
２年	２９	１７	４６	５	１６
３年	２４	１１	３５	４	１３
計	７６	３５	１１１	１３	４１

※他に非常勤の教員や部主事・首席が入っています。

【各教科・領域の目標】

国　語	・聞く力、話す力、読む力、書く力を高める。　・ひらがな・カタカナ・漢字を知る。 ・簡単な文を読んだり、書いたりする。　・コミュニケーション能力を高める。
社　会	・社会生活に必要な知識や技能を身につける。 ・日常生活に関する社会的事象について考える力を身につける。 ・社会的事象についての関心の幅を広げ、余暇活動につなげる。
数　学	・数の順序、量を理解する。　・身近な物の長さや重さの数量感覚を知る。 ・お金の種類がわかり、買い物ができるようになる。 ・時刻を正確に読めるようになる。
理　科	・季節の変化を感じ、自然を大切にする心を養う。 ・観察や実験を通して様々な事象に興味・関心をもち、問題を解決したり、考えたりする力を養う。
音　楽	・歌唱や器楽演奏を通じて音楽に親しみ、表現する力を養う。 ・鑑賞を通じて様々な音楽に触れる。
美　術	・感性を豊かにし、発想や構想する力を養う。 ・道具を安全に使用し、自己表現を楽しむ。 ・作品を鑑賞し、自分の見方や感じ方を広げる。
保健体育	・日常生活を活動的にすごせる体力を身につける。 ・集団生活を通して、仲間と協力する姿勢を育てる。 ・ルールを守る意識を高める。　・身体を動かす楽しさを感じ、余暇活動につなげる。
職　業	・働くことに興味・関心を持ち、働くことの意義を理解する。 ・自分の分担に責任を持ち、持続的に作業に取り組む。
家　庭	・衣、食、住における基礎的な知識と技能を身につける。 ・家庭生活で自分のできることを増やす。
キャリア	・日常生活の基礎的なスキルを身につける。 ・あいさつや社会のマナー等、人との関係を築く基礎的な力をつける。 ・将来の仕事や生活のイメージを育てる。　・清掃スキルを身につける。
総　合	・教科・領域で学んだことを、様々な活動の中で実践する力を養う。 ・友人と協力して活動し、達成する喜びを知る。
道　徳	・自分や他者について考える。　・広い視野で多面的、多角的に考える。 ・道徳的な判断力、心情、実践意欲、態度を身につける。 ・相手のことを思いやり、相手の立場に立って進んで親切にする態度を身に付ける。 ・かけがえのない生命を尊重する心を養う。 ・こころとからだについての知識を身につける。
特別活動	・興味・関心を広げる。 ・集団で活動することで、ルールやマナーを身につける。 ・見通しをもって行事に参加できるようになる。
自立活動	・一日の生活リズムを作り、健康を保持し、日常生活における体力と精神力をつける。 ・継続的に取り組む習慣を身につける。

高等部の教育

【高等部教育目標】

- **自己表現力を高め、心身の調和的発達をめざす**

  他学部や地域の人たちとの交流を深め、自己を表現する力・他者と協力する力を高め、円滑な人間関係が持てるようにします。

- **将来に夢や希望をもち、様々なことに挑戦する**

  学校生活を通じて望ましい習慣を身につけ、やりがいを持って自ら考え自発的に行動できる力を養います。

- **自己と他者を認め、お互いに高めあう**

  物事を選択、決定する力や責任感を身につけるとともに、自己理解を深め、自分らしく生きるために社会的自立に向けた自分の役割を理解し、将来にわたり生きがいある生活を送る力を養います。

【令和６年度　高等部生徒数・クラス数】　　令和６年５月１日現在

	生　　徒　（人）				教　　師（人）		
学年	男子	女子	計	クラス数	男	女	計
１年	２４	１０	３４	４	６	７	１３
２年	１９	２０	３９	４	５	８	１３
３年	２４	１５	３９	４	７	６	１３
合計	６７	４５	１１２	１２	１８	２１	３９

※　＋学部付き教員：４人　計４３人

【高等部の学習について】

・ベーシックスタディー（国語、社会、数学、理科）、とワークスタディー（職業）は、発達段階および学習到達度に応じた課題別グループ等に分かれて学習します。Ａグループは、自立活動を中心とした学習をします。

・その他の教科については、学年の実態に応じたグループ編成で学習を行います。

・クラスＨＲは、クラスや学年での活動、スクールＨＲは学部での活動を行います。ＨＲの時間は全校で活動できる時間としても設定されています。

・個別の教育支援計画、個別の指導計画、個別の移行支援計画を作成し個に応じた教育をめざします。

【コースについて】

２年次より職業コースと生活コースの二つのコースに分かれ、それぞれのカリキュラムで就労や社会自立をめざします。

○生活コース　・生徒の実態に合わせて、個別配慮の指導を中心とし、就労および社会的自立に向けた力を身につけます。

○職業コース　・就労に向けて、社会的自立の力を集中的に身につけます。

・生徒の職業特性を一層伸長することを目的とし、集団指導を中心とします。

・制服の着用と自主通学を必須としています。

【部活動（スポーツ同好会)】

・自主通学の生徒を対象に、放課後の部活動を行います。

・活動時間は、原則週 1～2 日、15：15～16：10 です。

・バスケットボールやサッカー等の、各種大会への出場をめざして取り組みます。

【高等部の通学区域】

○摂津市全域

○高槻市（五領中・第六中・第七中・第十中・冠中の校区）

○吹田市（山田中・西山田中・山田東中・千里丘中・青山台中・古江台中の校区）

【本校高等部卒業生の進路先一覧】

		令和３年度	令和４年度	令和５年度
企業就労		6	7	6
職業能力開発校		2	1	0
福祉施設	生活介護	11	10	12
	就労継続支援Ａ型	0	1	0
	就労継続支援Ｂ型	7	8	13
	自立訓練	3	5	3
	就労移行支援	0	0	1
進学		0	0	0
その他　入院治療・在宅等		1	5	1
合計人数		30	37	36

令和6年度　摂津支援学校　高等部　時間割

時間目	月					時間目
	1年	2年		3年		
		生活	職業	生活	職業	
1	家庭生活／委託	音楽／美術／布加工		保健体育		1
2						2
3	数学	家庭生活／委託	接客	音楽／美術／委託	接客	3
4						4
5	クラスHR	国語	国語	情報英語	道徳	5
6						6
	火					
	1年	2年		3年		
		生活	職業	生活	職業	
1	音楽／美術／窯業	清掃／GM	委託／布加工	数学	委託／布加工	1
2						2
3	社会	理科		清掃／GM		3
4	道徳	道徳	道徳			4
5	保健体育			クラスHR		5
6						6
	水					
	1年	2年		3年		
		生活	職業	生活	職業	
1	音楽／美術／窯業	家庭生活／委託	清掃／GM	社会	清掃／GM	1
2				道徳		2
3	国語	国語		国語		3
4		数学				4
5	理科	クラスHR		△布加工／△窯業	家庭生活	5
6						6
	木					
	1年	2年		3年		
		生活	職業	生活	職業	
1	保健体育	音楽／美術／布加工		保健体育		1
2						2
3	家庭生活／委託	清掃／GM	家庭生活	音楽／美術／委託	国語	3
4						4
5	スクールHR					5
6						6
	金					
	1年	2年		3年		
		生活	職業	生活	職業	
1	音楽／美術／窯業	数学	数学	家庭生活	数学	1
2						2
3	国語	音楽／美術／布加工	情報英語	清掃／GM	情報英語	3
4	数学					4
5	清掃／GM	保健体育		音楽／美術／委託		5
6						6

△は選択

Ⅱ　研究・実践の報告・発表①

今年度の研究テーマについて

研究・研修部　藤城光好

１．はじめに

本校では今年度より研究テーマ（主題）を設定し、年間を通して研修や実践を深めていくことになった。そのことにより、全校教職員が共通意識をもちながら実践に取り組むことができ、共通の研究テーマにそった実践の成果を全校教職員で共有できると考えたからである。

研究テーマ（主題）を設定するにあたり、本校の学校目標（めざす学校像）から「君の得意を見つけ　伸ばそういいところ」、今年度の中期的目標から「１．安全・安心の教育を進める学校、（１）人権尊重の教育の推進、エ　自己肯定感を高める教育を一層推進する」と関連させて、今年度の研究テーマを「児童生徒の自己肯定感を育む教育実践」とした。

２．自己肯定感とは

昨年度、校内研修会で講演していただいた梅花女子大学の伊丹昌一教授によれば、自己肯定感（自尊感情）とは、「そのままの自分を認め受け入れ、自分を尊重し、自己価値を感じて自らの全存在を肯定する」感覚であり、「自分は大切な存在だ」「自分はかけがえのない存在」だと思える心の状態であるという。また、このような自己肯定感が低い子どもは以下のような特徴を示すという。

・　ネガティブなことを言い、自分自身に批判的
・　自分のダメな部分に焦点を合わせ、自分の良い面を無視する
・　物事がうまくいかないときに自分を責める
・　他の人が自分よりも優れていると思う
・　自分は楽しむ価値がないと思っている
・　ほめ言葉を受け入れない
・　失敗を恐れて挑戦を避ける
・　不承認や批判に過剰に動揺する
・　過剰に落ち込む、恥ずかしがる、怖がる、怒る

このような特徴を示す児童生徒は本校にもたくさん在籍すると考えられる。児童生徒の自己肯定感を育む教育実践が強く求められるのである。

３．研究計画

○4 月　全体研修「令和 6 年度の研究テーマについて」

今年度の研究テーマを全教職員で共有するために全体研修を実施する。

○6 月　学部研修「事例検討①」

各学部・学年で事例検討を実施する。各クラスで気になる児童生徒について、自己肯定感評価尺度（後述）を用いてアセスメントを行い、「自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点(試案)※１」を用いて具体的な支援方法について協議する。

○8 月　全体研修「児童生徒の自己肯定感を育む教育実践について」講師：梅花女子大学　伊丹昌一教授

昨年度に続いて梅花女子大学の伊丹昌一教授の講演会を実施する。6 月の学部研修で検討された事例を基にいくつかの架空の事例を作成し、それらの事例について具体的な助言をいただく。

○9 月～12 月　各クラスでの実践

6 月の事例検討、8 月の講演会を経て各クラスで対象児童生徒に具体的な支援を行う。

○1 月　学部研修「事例検討②」

各クラスの教育実践を踏まえて、児童生徒の変化について評価を行う。再度、自己肯定感評価尺度を用いて各クラスの教育実践について振り返りを行う。

４．自己肯定感評価尺度の作成

今年度の教育実践にあたり、児童生徒の自己肯定感を評価するために尺度を作成した。自己肯定感尺度については、ローゼンバーグ（Rosenberg）の自尊感情尺度(Self Esteem Scale)が国内外で広く用いられているが、自己評価であるために支援学校の児童生徒には使い難い。そこで東京都教職員研修センターが作成した「自尊感情の他者評価シート※２」を参考に、児童生徒と身近に接している担任が、ある程度客観的に評価できる他者評価尺度（自己肯定感チェックリスト）を作成した（図１）。さらに評価尺度の結果から具体的な支援方法を導き出すために、「自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点（試案)」とリンクできるように項目を修正した。

自己肯定感チェックリスト

(　　)学部(　　)年(　　)組

①当てはまる項目にチェックを入れる。
②ひとつのチェックを1点として、A～Bの各欄に点数を記入する。
③レーダーチャートにA～Bの各点数を転記する。

		チェック	点数
1	ほめられても素直に喜ばない。	□	A
2	自分で決めることが苦手。	□	
3	ネガティブな言動がおおい。	□	(　　)
4	クラス活動や学校行事に消極的である。	□	B
5	先生や友だちから頼まれてもあまり引き受けない。	□	
6	先生や友だちから認められることが少ない。	□	(　　)
7	自分の意見を言えない。	□	C
8	自分の得意なことや、良いところに気づいていない。	□	
9	自分の考えにこだわる。	□	(　　)
10	自分勝手な言動が目立つ。	□	D
11	友だちと一緒に遊ぶことが少ない。	□	
12	友だちに何かしてもらっても「ありがとう」がいえない。	□	(　　)
13	失敗や間違いを過度に恐れる。	□	E
14	新しいことにチャレンジしようとしない。	□	
15	すぐにあきらめてしまう。	□	(　　)

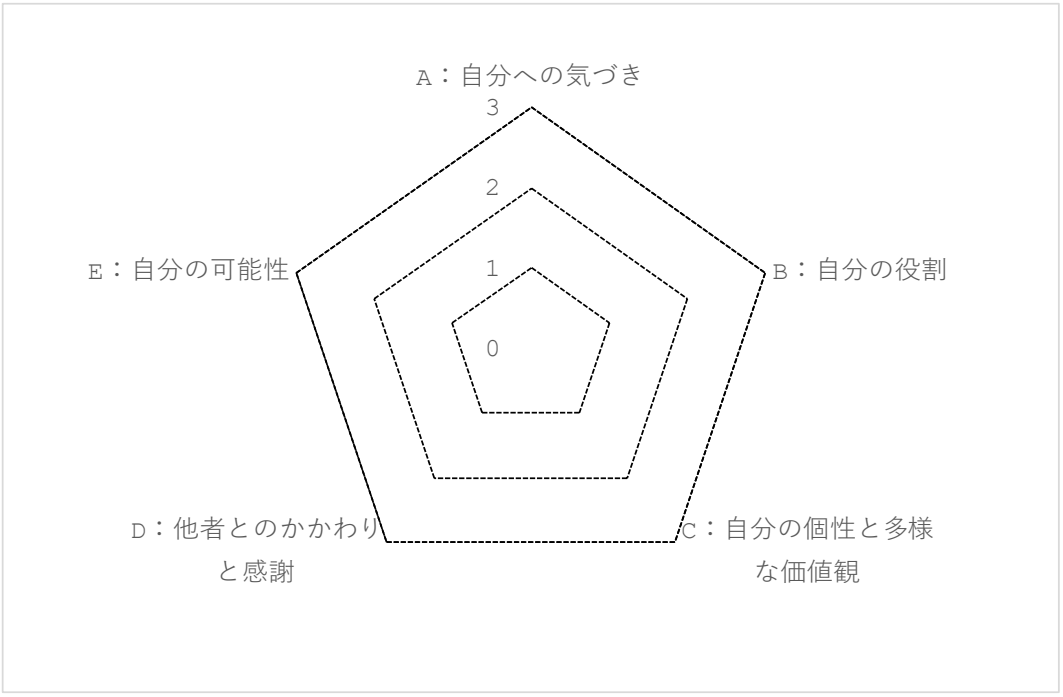


図1

「自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点（試案)」とは、東京都教職員研修センターが、幼児・児童・生徒の発達段階に応じた自己概念の形成段階に着目し、発達段階を踏まえた上で指導・援助における具体的な留意点として次の５つの観点にまとめたものである。

A 自分への気付き
　自分ができたことや頑張ったこと、得意なこと、よさ等に気付くとともに、自分の行動や考え方を受け止め、自信をもつ。

B 自分の役割
　集団や様々な人間関係における自分の役割に気付くとともに、周りの人のために役に立っていることを理解する。

C 自分の個性と多様な価値観
　自分の考え方や行動そのもののよさを理解するとともに、周りの人の多様な考え方を知り、受け止める。

D 他者とのかかわりと感謝
　多様な集団の中で活動し、人とのかかわりを広げるとともに、周りの人の支えがあって自分の活動が充実していることを理解し、感謝の気持ちをもつ。

E 自分の可能性
　自分の行動の達成感を感じるとともに、失敗や困難は自分一人だけではないという安心感をもち、努力すればできるという自分への可能性をもつ

５．おわりに

児童生徒の自己肯定感を育むために、今年度の研究テーマを設定し、研究計画を立案した。また、各学部・学年での事例検討を進めるために自己肯定感チェックシートを作成した。このチェックシートは標準化されていないため信頼性や妥当性に問題があり、今後の検討課題である。しかしながら、個々の担任がクラスで気になる児童生徒について簡便な方法で課題を見つけ、具体的な支援方法を検討する上では有用であると考えられる。何よりもたくさんの児童生徒が自己肯定感を高めて、楽しく学校生活を送れるようになることが重要である。

＜参考＞

※１　東京都教職員研修センター紀要　第８号　「自尊感情や自己肯定感に関する研究 - 幼児・児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高める指導の在り方 - 」　東京都　2009

※２　東京都教職員研修センター紀要　第 11 号　「自尊感情や自己肯定感に関する研究（４年次)」　東京都　2012

学部事例検討会について

研究・研修部

１．はじめに

今年度の研究テーマである「児童生徒の自己肯定感を育む教育実践」を進めていくにあたり、年間研究計画の中で、2回の学部事例検討会を設定した。第1回（6月）は「自己肯定感チェックリスト」を用いて気になる児童生徒のアセスメントを実施し、８月の梅花女子大学伊丹昌一教授による講演を経て、第2回（1月）は指導支援の振り返りを実施することとした（〇ページ参照）。ここでは、その学部事例検討会の詳細と「自己肯定感チェックリスト」による本校児童生徒の傾向について報告する。

２．学部事例検討会の進め方

（１）第1回学部事例検討会

クラスごとにワークシートを用いて話し合いを行った。まず、担当するクラスの中で自己肯定感の低いと思われる児童生徒を1名あげ、その理由について話し合った。次に「自己肯定感チェックリスト」を用いて児童生徒の重点課題を明らかにし、「自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点(試案)」(東京都教職員研修センター)を参照しながら発達段階を踏まえた上での具体的な指導・支援について検討した。

（２）第2回学部事例検討会

第1回で検討した指導・支援を実施した結果について振り返りを行った。再度「自己肯定感チェックリスト」を用いて、変化した所と変化しなかった所を確認した。

３．自己肯定感チェックリスト

第1回学部事例検討会で用いた「自己肯定感チェックリスト」を集約し、各学部で自己肯定感が低いと考えらえる児童生徒の傾向について分析する。

「自尊感情を高めるための発達段階に応じた指導上の留意点（試案)」における５つの観点をそれぞれ点数化し（0～3点)、学部間の平均点を比較した（表１)。

表１　「発達段階を踏まえた指導・援助における５つの観点」の学部間比較

５つの観点	小学部	中学部	高等部	全体
A：自分への気づき	2.4	1.8	1.8	1.9*
B：自分の役割	1.2	1.5	0.8	1.2
C：自分の個性と多様な価値観	2.2	2.1	1.6	1.9*
D：他者とのかかわりと感謝	1.8	1.5	1.0	1.3
E：自分の可能性	2.0	1.8	1.9	1.9*

*p<.05

全体として「A：自分への気づき（以下 A)」「C：自分の個性と多様な価値観（以下 C)」「E：自分の可能性（以下 E)」の平均点が他の項目と比べて有意に高かった（p<.05)。「自己肯定感チェックリスト」の項目としては、A は「ほめられても素直に喜ばない」「ネガティブな言動がおおい」などであり、C は「自分の意見を言えない」「自分の得意なことや、良いところに気づいていない」などであり、E は「失敗や間違いを過度に恐れる」「新しいことにチャレンジしようとしない」などであった。以上のことから、本校の自己肯定感が低いと考えられる児童生徒の傾向として、消極的で自信がなく、否定的な言動が多いことがうかがわれる。このような児童生徒への指導支援としては、「活動を自己決定できるようにする」「考え方や行動の多様性を理解できるようにする」「できたことやその過程を認め、達成感や充実感を味わえるようにする」などが有効であると考えられる。

４．代表的な事例

ここでは、第 1 回学部事例検討会で話し合われた児童生徒の代表的な事例について、個人情報が特定できないように加工して報告する。

○A さんは、担任が褒めても「当然のことなので・・」とあまり喜ばなかったり、「なんでそんなことで褒めるの！」と逆に怒り出したりする。

○B さんは、指導や指摘にとても敏感である。できていないところをアドバイスしようとしても、聞き入れることができない。また、不適切な行動を注意すると泣いてパニックになる。他の子どもが指導されていても過剰に反応する。

○C さんは、思考や言動がネガティブなものが多い。自分の失敗が許せなかったり、「どうせ自分なんか・・」など自己否定の発言が多かったりする。過去の出来事を思い出して負のスパイラルに入ってしまい抜け出せないこともある。

○D さんは、不登校である。自己イメージと現実にずれがあるようで、たまに登校してきても自分が思ったようにできないと落ち込んで、また登校できなくなる。

以上の児童生徒への具体的な指導・支援については、8 月の梅花女子大学伊丹昌一教授から貴重なご助言をいただいた。

５．おわりに

今年度の学部事例検討会について報告した。これまでの校内研修は単発で企画されることが多く、研修成果が確認しにくかった。今回３回（夏の講演会を含む）の連続した研修会を実施することで、児童生徒のアセスメントから指導・支援の実施、結果の評価までの一貫した流れを作ることができた。指導・支援の有効性についてはさらなる検証が必要であるが、今後もこのような研修会を企画することで本校教員の教育力・実践力を向上させていきたい。

＜参考文献＞

東京都教職員研修センター（2008）：自尊感情や自己肯定感に関する研究－幼児・児童・生徒の自尊感情や自己肯定感を高める指導の在り方－．平成 20 年度東京都教職員研修センター紀要第 8 号．3 - 26.

自立活動の取り組みにつながる ファシリテーションボールメソッド（ＦＢＭ)と その活用について

研究・研修部　森本はるか、鈴木瑞穂、佐藤和士

１．はじめに

本校では各教科や HR、朝の会や終わりの会など、日々さまざまな時間の中で自立活動の指導を行っている。教員の専門性を高め、児童生徒一人ひとりの実態に応じた適切な指導をするために、自立活動に関する教員研修会を年間３回実施している。

今年度は「自立活動の取り組みにつながるファシリテーションボールメソッド(以下ＦＢＭ)」を全学部共通のテーマとし、年間３回の研修を企画した。

２．ＦＢＭについて

ＦＢＭとは、空気量を調整した柔らかいファシリテーションボール(以下ＦＢ)を媒介にしたボディーワークである。ＦＢによってもたらされる重力負荷の軽減を利用して、触圧、揺れ、振動などの刺激と同時に、抗重力活動、バランス、姿勢の保持・静止・変換・移動、手指操作などを個々に応じてプログラムする方法である。ＦＢＭの指導により、触圧、揺れ、振動等の刺激を通して、心身のリラクゼーションが促されると共に、感覚運動機能の向上・情緒の安定・対人関係の改善等の効果が得られるとされている。

３．実技講習について

令和６年７月 29 日にＦＭＢ研究会代表　河野健三先生をお招きし、体育館で全教員を対象とした実技講習を実施した。様々な児童生徒の状況における具体的な手技について、動画を用いて丁寧に教えて頂いた。夏季休業期間中であったため多数の教員の参加があり、自立活動に対する教員の関心の高さがうかがえた。また、研修に参加できなかった教員のために、研修会の様子を撮影した動画を、後日校内の共有フォルダで公開した。

４．部内研修

実技研修で紹介いただいた手技・技法などをもとに、各学年で実践に取り入れられるケースについて検討し、実際に一定期間取組んだ。各学年で日々の自立活動にどのように取り入れたかを学部毎に報告しあった。以下では研修で発表された例を報告する。

５．高等部の取り組み

○生徒Ａの事例

課　　題　：明らかに右に傾いて左足に体重をかけずに歩いている。それにより、直立時、歩行時に骨盤も右前方向にねじれるように傾き、肩の位置も右が下がっている。それにより右わき腹が縮み、背骨も湾曲しているように見える。運動時に痛みを感じる場所が増えている様子。地面に座る時や、立ち上がりにも時間がかかる。

目　　標　：直立時、歩行時の体の傾きを少しでも少なくする。

内　　容　：ＦＢＭによる重力が免荷された状態でのアプローチによって、骨格や関節の位置関係を整えるという側面に着目し、本生徒の体の傾きやねじれの解消、その先にある姿勢の改善をめざす。右への加重によって縮んでいる右わき腹や背を伸ばして広げるため、ファシリテーションボール（以降 FB と表記）を使って伸縮をめざす。

実践の様子：①背中の筋肉が拘縮しているので、ＦＢに仰向けになることで、ゆるめた。応用としてそのままの状態で支援者が両膝を軽く押し、自分の力で元の場所に戻る、という取り組みも行った。ボールに乗っているだけの状態よりも姿勢の保持に力が必要であり、正しい姿勢を保持するための筋肉も使う動きであった。

②ＦＢに横向きに乗り、右脇腹を支援者が伸ばした。

③上半身の傾きや骨盤の位置を正常な位置にして、ＦＢにうつぶせに乗って過ごす時間を設けた。

結　　果　：直立時、歩行時、共に傾きやねじれの改善が見られた。

感想・考察：①・②については支援者がついて行ったが、③については一人で安全に短時間で行え、持続性のある取り組みだと感じた。毎日行えると効果的であると感じるが、今回の取組みは一週間に一度、ないし二度が限界であり、時間に制限があったため、工夫が必要だと感じた。

６.中学部の取り組み

中学部では河野先生の講習を受け、ＦＢを使った取り組みを各学年の実態や実情に合わせて、授業や各クラスでの活動で実践し、その様子を学部で交流した。

○生徒Ｂの事例

課　　題　：座位姿勢の改善

目　　標　：座位の姿勢で、背中を伸ばした感じをつかみ、足裏をつける感覚を味わ

うなど、姿勢に関する意識を育てる。

内　　容　：給食の時間にお尻の下や背中に小さなＦＢを挟んで使うことにより、体幹を意識し、背中をまっすぐにし、足裏をつける姿勢を体験させる。

実践の様子：座る時のバランスなど、自分で調整して座る様子が見られるようになってきた。

感想・考察：最初は抵抗があったようだが、毎日、続けるうちにボールを使うことに慣れてきて、自分からボールを持ってきて取り組む様子が見られた。

○自立活動の授業（C 学年からだグループ）での取り組み

生徒の実態及び課題：筋力及び体幹が弱いため、姿勢を維持できず姿勢が悪くなる。ボディイメージが弱い。

目　　標　：体幹を育てる。リラックスする感覚を味わう。

内　　容　：大きなＦＢを使った、一人でも取り組みやすい５種類の課題（すわりバウンド、片足バウンド、うつぶせ、あおむけ、両足バウンド）から、それぞれの課題に順番で取り組んだ。回数、強度は生徒の実態に応じて設定した。

実践の様子：回を重ねていくにつれて、自分のお腹のどこに力を入れれば姿勢が安定するのか、バランスがとれるのかを感じ、調整している様子が見られるようになった。また、課題の順番も把握して動けるようになり、緊張感の強い生徒も、ボールの課題だとリラックスして取り組めるようになってきた。

感想・考察：生徒たちは、大きなボールに接することはあっても、ＦＢの課題には取り組んだことのないような印象だった。しかし、ボールには興味を持っていたので、楽しみながら課題に取り組み、達成感を味わうことができたようだった。現在、少しずつコツをつかめてきたところなので、短期ではなく長期的にコツコツ取り組むことが大事だと感じた。また、使用する道具もボールだけで場所も取らないので、毎日の休み時間などに少し時間をとって取り組ませるといいのではないかと感じた。

○自立活動の授業（D 学年からだグループ）での取り組み

生徒の実態及び課題：筋力が弱く、体幹保持が難しい。リラックスすることが難しい。

目　　標　：リラックスする感覚を味わう。
自発的に活動に取り組み、体幹を意識してバランスを取る。

内　　容　：体幹やバランスについて、生徒たちがより自発的な取り組みができないかということでＦＢを使ってみた。うつ伏せや仰向けなどの課題を、生

徒の実態に合わせて強度、回数を調整して取り組んだ。また、活動への意識づけを促すため、音楽も使用した。

実践の様子：ＦＢを使った課題の中で、主体的にボールにかかわり、リラックスしている様子や、ボールに乗って楽しくダイナミックに動く様子がみられた。

感想・考察：今回、ＦＢを使う中で、リラクゼーションやストレッチを目的とした取り組みだけでなく、ボールの上で課題の姿勢をとる際に教師の援助を受ける時のコミュニケーション面など、自立活動の様々な領域で活用することができるということを感じた。

７．小学部の取り組み

小学部では、河野先生の講習を受け、２～５年の各学年で対象となる児童の検討を実施し、ＦＢを使った実践に取り組んだ。個別で取り組んだり集団活動に取り入れて取り組んだり、学年や児童の実情に合わせて実践をし、その様子について学部で交流を行った。

○児童Ｅの事例

課　　題　：姿勢の保持が難しい。

目　　標　：体幹を育てる。楽しく取り組む。

内　　容　：朝の会前の遊びの時間に取組む。「さんぽ」の曲に合わせて、大きなＦＢを使って遊べるように、ＦＢと見本動画を準備する。
ボールに座った時の不安定さを経験できるようにし、自分で姿勢を保持しようとする反応を促すとともに、必要に応じて支える。

実践の様子：動画を前に示すと、大きなＦＢを使った椅子座位の姿勢の取組みの間、本児の顔が上がるようになった。
音楽に合わせてボールで跳ねるような動きが出て、自分でバランスを取って椅子座位の姿勢を保持しようとする様子が見られた。

感想・考察：取り組み始めて間もなかったが、楽しみながら体幹のトレーニングができる取組みだと感じた。

○児童Ｆの事例

課　　題　：階段を降りることを怖がる様子が見られる。理解力、認識力は高いが、不器用さがあり、体の使い方にアンバランスさがあると感じることがある。

目　　標　：力を抜く感覚を味わう。体幹を育てる。

内　　容　：朝学習での２、３分を使って教師が一人ついて取り組む。教師が手本を

示したり、言葉かけをしたりして、ＦＢを使った活動に取り組み、様々な姿勢を経験することで、リラックスする経験を積む。ＦＢから受ける感覚をリラックスした状態で受容しつつ、楽しみながら体を動かす運動に取り組む。

実践の様子：力を抜いて体を預けてリラックスする様子が見られた。また、バランスをとる様子も見られた。

感想・考察：バランスボールと仲良しになり、自分からＦＢに座りに行って遊ぶ姿が見られるようになった。また、ドーナツ型のエアークッションに乗って、ジャンプをしたりバランスをとったりするなど体を使って遊ぶことが増え、遊びの幅が広がってきていると感じる。

○児童Ｇの事例

課　　題　：身体に力（緊張）が入っており、胸元が硬い様子が見られる。そのため、肩の可動域も狭かったり、動かそうとした際に、力（緊張）が入り、こわばってしまったりする様子が見られる。

目　　標　：ボールに身体を預ける経験をする。胸元の緊張をほぐす。静かに過ごす時間を経験する。

内　　容　：朝の学習の時間に取組む。ＦＢを使用し、ボールに身体を預ける時間を設定する。ゆったりとした曲調の音楽を流しながら胸元の緊張をほぐすようにマッサージをする。

実践の様子：1学期はことばかずの時間に毎週1回ＦＢに身体を預けて、全身の力を抜く時間を設定した。その際には、恐怖心が強くかえって力が入ってしまったり逃れようとしたりする様子が見られた。

繰り返し取り組むことで、少しずつ活動に慣れ、身体を預けられるようになった。

10月よりクラスの朝の時間にも5～10分程度の取り入れ、ＦＢを使った活動やマッサージの時間を設定した。本児の好きな曲を流しながら取り組むことで、心理的な安定を図りながら実施することができた。

身体の緊張がほぐれて、柔らかくなったり可動域が広くなったりする様子が見られ、自分から手を伸ばしてリラックスをする様子が見られるようになった。また、心理的にも落ち着くようで、実施後は落ち着いてゆっくり過ごすことができる様子も見られるようになった。

感想・考察：本児の身体の特性を考えると、身体を預けて緩める時間やマッサージをする時間の設定は必要であると感じた。また、気持ちの面でも落ち着くことができる様子も見られたので、今後も継続的に実施していく必要性があると感じた。

○児童Ｈの事例

課　　題　：椅子に座った時の姿勢が崩れやすい。円背。

目　　標　：自分で体幹を起こした姿勢をとれる、また、とれる時間が伸びる。
体幹を起こした姿勢（腰を起こす）感じをつかむ。
時々の言葉かけで、姿勢を正そうとする。

内　　容　：ＦＢを使った座位に取り組み、坐骨周辺の感覚刺激を味わわせ、自分で骨盤を起こした座位の感覚を経験させる。場面を決めて座位姿勢に取組み、補助や支援、言葉かけを徐々に減らしても姿勢を保持できるようにしていく。

実践の様子：これまで使っている椅子に空気を減らしたＦＢを載せて座らせた。座面が少し高くなる様子で、前に体がずれやすくなり、余計に腰が寝てしまった。椅子を少し低くしてさらに空気を減らして使用すると、腰を起こす姿勢をとる様子が見られた。
長時間（始めから終わりまでなど）というのは難しいが、本児自身が姿勢を気にする様子が増えたように感じられた。円背があり、ずっと起こしっぱなしは辛そうに見えるが、自身でバランスをやや後方にずらし、起こしたまま保持しようとしている。

感想・考察：声をかけて姿勢を変えさせると、反らせすぎるくらい頑張ってしまうが、ＦＢを使うことで、感覚として感じ取りやすかったように感じた。姿勢を自発的に意識したり保持したりすることに有効な手法だったと感じた。

８．おわりに

今回は、主には小さなＦＢに焦点を当てた取り組みを中心に実技指導を受け、各学部での実践に取組んだ。どの学部の児童生徒の事例においても、ＦＢを使用した取り組みによって、姿勢や動作の改善につながった報告がされた。このことからわかるように、日々の実践の中でＦＢを活用することは有効であり、学校生活の中で今後も取り入れていくことが望まれるものである。

各学部の実践を通して、ＦＢを使用した心地よい揺れや感覚を大いに味わうことで、子どもたちの自発的な動作が引き出されたり、心身が緩む感覚を経験できたりすることの重要性を感じることができた。時間の設定などに工夫も必要であるが、今後も自立活動の一つの大きな取組みの方法として周知を図っていきたい。

授業力向上プロジェクト
―シラバス作成等の５か年計画―

教育課程検討委員会/教務部長/首席　日高 匠

１、はじめに

本校では、令和３年度から「授業力向上プロジェクト」と銘打ち、シラバス作成や教科研究会活動の活性化等に取組んできた。府内統一シラバスの導入や開校からの本校の流れについては、本校発行の『令和四年度　研究紀要「きらめき(第五号)」』で詳しく述べているので、そちらを参照されたい。

ここでは、前号で述べていない５か年計画の全体像や、その後の３年めと４年め、そして最終年度である５年め以降について述べていきたい。

２、５か年計画とは

授業力向上を図るために、①「わかる授業」「良い授業」づくり、実践をめざす、②学習指導要領改訂に伴った教育課程・教科指導・シラバスの見直しをする、③(創立２０周年までの)次の１０年間の学校づくりを見据えた授業改善に取組む、という３つを目標に掲げた。

“５か年”の計画にした理由は、シラバス作成にあたる教員たちに作業の見通しをもてるようにする意図からである。また、実際に完成までに要する時間が５年ほど必要と試算したからである。このように、シラバス作成期間を土台とした５年間に教科研究も盛り込み、全校で授業力向上を図っていく(教科研究会で教材を研究する体験をする)期間にした取組みが「授業力向上プロジェクト」である。各年度の取組み内容は、【表１】で示しているとおりである。

３、５か年計画の３～４年め

次に前号以降に取組んできた内容について述べる。

まず３年め(令和５年度)には、通常の単年度シラバス作成以外に３つの作業に取組んだ。１つめは、シラバス様式３に年間指導計画として機能を追加し、年度当初の授業計画に使用できるようにしたことである。これについては、現状の運用の様子から必須ではなく“推奨”としている。２つめは、『３～６年間のシラバス』【表２】の作成、３つめが『１２年間のシラバス』【表３】の作成である。学年や学部、学校全体での系統性を確認できるようにするためのツール作成に着手し、ほとんどの教科で「仮版」を完成させることができた。

【　表1　】

年数	取り組み内容
1年め R3	・全校教科会アクティブ化(授業ビデオ視聴、教材展示会) ・シラバス方針提案(教育課程とのリンク、様式3、3年間シラバス等) ・摂津支援版シラバス作成の手引き作成
2年め R4	・全校教科研究会アクティブ化(継続) ・シラバスの方向性検討と整理【小学部】【高等部】 ・『3年間のシラバス』作成着手【中学部】
3年め R5	・全校教科研究会アクティブ化(継続　＋学部間調整) ・様式3に年間指導計画として機能追加予定 ・各教科研究会でシラバス検討 ・『3～6年間のシラバス(仮)』『12年間のシラバス(仮)』の作成
4年め R6	・全校教科研究会アクティブ化(継続　授業ビデオ、教材展示会一旦ラスト) ・『12年間のシラバス(仮)』で小中高の内容をチェックし、完成版へ ・『6年間のシラバス(小)』『3年間のシラバス』で学部の内容をチェックし、完成版へ ・各種チェックを受けて、『単年度シラバス(様式 1,2)』の修正があれば作業
5年め R7	・完成(暫定)したシラバスを運用する。 ・シラバス表記方法等のずれや不具合がある場合は、全校時に調整し、修正する。

※網かけ部分がシラバスに関する事項

【 表２ 】

中学部　社会・理科　３年間のシラバス

		前期		後期	
学年	段階	社会	理科	社会	理科
1年生	中２	地理の基本/世界の様子・見方 アジア州/ヨーロッパ州/アフリカ州	動物・植物(種類、分類、生態・成長)	アメリカ州・オセアニア州・新聞づくり	風とゴム(力の強さ等)/磁石(性質、ゲーム)
	中１	地理の基本/世界の様子・国旗 アジア州/ヨーロッパ州/アフリカ州	動物・植物(分類、生態・成長)	アメリカ州・オセアニア州	風とゴム(力の強さ等)/磁石(性質、ゲーム)
	小３	わたしたちの生活/季節行事　等	昆虫・動物・植物(名前、植物探し)	世界の遊びを知ろう・校外学習・季節行事 まとめ	風とゴム(ウィンドカー、ぴょんぴょんかえる等) 磁石
	小２	日常生活/友だちと先生/季節行事/挨拶　等	昆虫・動物・植物(採集、カードゲーム等)	ルールゲーム・校内散策・季節行事　等	風とゴム(遊びや簡単な実験)/磁石
	小１	日常生活/友だちと先生/季節行事/挨拶　等	昆虫・動物・植物(校内散策、カードゲーム等)	ルールゲーム・校内散策・季節行事　等	風とゴム(遊びや簡単な実験)/磁石
2年生	中２	社会のルール/公共施設・地図記号/交通機関 身近な地域を知ろう	空気・ 水(変化)/光と音(音の違い)	都道府県(九州、中国、四国、近畿、中部、関東、東北、北海道地方)・旅行計画	人の体(遺伝等)/水溶液(酸アルカリ等)
	中１	社会のルール/公共施設/交通機関	空気・水(圧縮等)/光と音(反射・集光等)	都道府県(九州、中国、四国、近畿、中部、関東、東北、北海道地方)	人の体(つくりと運動)/水溶液(酸アルカリ等)
	小３	社会のルール/物流について/郵便/校外学習	空気・水(水の三態変化等)/光と音(糸電話等)	身近な地域・近畿地方・都道府県・リサイクル 校外学習	人の体(名称、働き等)/水溶液(ダイラタンシー等)
	小２	働く車/信号と標識/配達/郵便/校外学習	空気・水(遊び等)/光と音(影絵、楽器等)	季節と学校行事・校内徒歩・リサイクル学習 校外学習	人の体(臓器の名称)/水溶液(スライム等)
	小１	働く車/信号と標識/配達/郵便/校外学習	空気・水(遊び等)/光と音(影絵、楽器等)	季節と学校行事・校内徒歩・リサイクル学習 校外学習	人の体(体の部位等)/水溶液(シャボン玉等)
3年生	中２	歴史の基本/文明の登場/縄文・弥生・古墳・飛鳥・奈良・平安・鎌倉・室町時代	物と重さ(体積や形等)/宇宙(惑星、満ち欠け)	室町・安土桃山・江戸・明治・大正・昭和時代 平成と令和・社会のしくみ	電気(電磁石等)/天気と大地(雨水の行方等)
	中１	歴史の基本/文明の登場/古代・中世・近世・近代・現代/テーマ史	物と重さ(体積や形等)/宇宙(自転・公転等)	社会のしくみ	電気(電磁石等)/天気と大地(天気の変化等)
	小３	いろいろな歴史/学校行事	物と重さ(比較等)/月と星と太陽(動き等)	いろいろな仕事/社会人に向けて/買い物学習/ 学校行事	電気(電気回路等)/天気と大地(気温変化等)
	小２	学校周辺散策/身近な公共交通機関/季節行事/ 学校行事	物と重さ(物の重さ)/月と星と太陽(動き等)	いろいろな仕事/買い物学習/季節行事/ 学校行事	電気(静電気等)/天気と大地(天気予報等)
	小１	学校周辺の散歩/季節行事/学校行事	物と重さ(物の重さ)/月と星と太陽(形等)	身近な公共交通機関について/買い物学習/季節行事/学校行事	電気(電化製品等)/天気と大地(災害等)

※社会は１年【世界地理】、２年【日本地理＋公民】、３年【歴史＋公民】で編成。
※カリキュラムマネジメントで実施時期を変更することも可能。項目だけ落とさないようにする。詳しい学習内容はシラバスを参照。

【　表３　】

大阪府立摂津支援学校　社会科(生活科)　12年間のシラバス　　R5.11.22

		小学部段階			中学部段階		高等部段階	
		1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階
小学部	1年生	・基本的生活習慣(荷物整理、手洗い) ・遊び+・ものの仕組み(ゲーム、玩具遊び、伝承遊び) ・役割+人との関わり(交流活動、合同生活) ・金銭(校外学習事前学習、買い物学習) ・安全(防災学習、交通安全教室)　・日課(朝の会、終わりの会) ・手伝い(調理実習、清掃:机拭き)　・生命自然(栽培) ・社会の仕組み(中庭やプレイルーム)　・きまり(事前学習、図書室利用)						
	2年生	・基本的生活習慣(手洗い、歯磨き、身だしなみ) ・遊び+・ものの仕組み(ゲーム、玩具遊び、伝承遊び) ・役割+人との関わり(交流活動、合同生活) ・金銭(校外学習事前学習、買い物学習) ・安全(防災学習、交通安全教室)　・日課(朝の会、終わりの会) ・手伝い(調理実習、清掃:モップ床拭き)・生命自然(栽培) ・社会の仕組み(図書室)　・きまり(事前学習、図書室利用)						
	3年生	・基本的生活習慣(友だちとの距離、身だしなみ、規則正しい生活) ・遊び+・ものの仕組み(ゲーム、玩具遊び、伝承遊び) ・役割+人との関わり(交流活動、合同生活、T-NET) ・金銭(校外学習事前学習、買い物学習) ・安全(防災学習、交通安全教室)　・日課(朝の会、終わりの会) ・手伝い(調理実習、清掃:雑巾で机と床拭き)・生命自然(栽培) ・社会の仕組み(公園)　・きまり(事前学習、図書室利用)						
	4年生	・基本的生活習慣(友だちとの距離、男女、季節に応じた服装、咳と鼻水) ・遊び+・ものの仕組み(ゲーム、玩具遊び、伝承遊び) ・役割+人との関わり(交流活動、合同生活、T-NET、児童会選挙、鳥飼小) ・金銭(校外学習事前学習、買い物学習) ・安全(防災学習、交通安全教室、防犯)　・日課(朝の会、終わりの会) ・手伝い(調理実習、清掃:机拭き)　・生命自然(栽培、生物観察) ・社会の仕組み(電車)　・きまり(事前学習、図書室利用)						
	5年生	・基本的生活習慣(いいウンチ、男女、清潔、友だちとの距離) ・遊び+・ものの仕組み(ゲーム、玩具遊び、伝承遊び) ・役割+人との関わり(交流活動、合同生活、T-NET、児童会選挙) ・金銭(校外学習事前学習、買い物学習) ・安全(防災学習、交通安全教室、防犯)　・日課(朝の会、終わりの会) ・手伝い(調理実習、清掃:ほうき掃き)　・生命自然(栽培、観察) ・社会の仕組み(レストランとホテル)　・きまり(事前学習、図書室利用)						
	6年生	・基本的生活習慣(男女、友だちとの距離、身だしなみ、清潔、からだと健康) ・遊び+・ものの仕組み(ゲーム、玩具遊び、伝承遊び) ・役割+人との関わり(交流活動、合同生活、T-NET、児童会選挙) ・金銭(校外学習事前学習、買い物学習) ・安全(防災学習、交通安全教室、防犯)　・日課(朝の会、終わりの会) ・手伝い(調理実習、清掃:清掃道具全般)・生命自然(栽培、観察) ・社会の仕組み(レストランとホテル)　・きまり(事前学習、図書室利用)						
中学部	1年生	・日常生活 ・友だちと先生 ・季節行事 ・挨拶 ・ルールゲーム ・校内散策　等	・日常生活 ・友だちと先生 ・季節行事 ・挨拶 ・ルールゲーム ・校内散策　等	【世界地理】 ・わたしたちの生活 ・季節行事 ・世界の遊びを知ろう ・校外学習関連　等	【世界地理】 ・地理の基本 ・世界の様子と見方 ・世界の6つの州	【世界地理】 ・地理の基本 ・世界の様子と見方 ・世界の6つの州 ・新聞づくり		
	2年生	・働く車　・信号と標識 ・配達/郵便 ・校外学習 ・季節と学校行事 ・校内徒歩 ・リサイクル学習	・働く車　・信号と標識 ・配達/郵便 ・校外学習 ・季節と学校行事 ・校内徒歩 ・リサイクル学習	【日本地理】 ・社会のルール ・物流について/郵便 ・校外学習 ・身近な地域 ・都道府県 ・リサイクル	【日本地理】 ・社会のルール ・公共施設/交通機関 ・都道府県(7地方)	【日本地理】 ・社会のルール ・公共施設/交通機関 ・地図記号 ・身近な地域を知ろう ・都道府県(7地方) ・旅行計画		
	3年生	・学校周辺の散歩 ・季節行事/学校行事 ・身近な公共交通機関 ・買い物学習	・学校周辺の散歩 ・季節行事/学校行事 ・身近な公共交通機関 ・買い物学習	【歴史+公民】 ・いろいろな歴史 ・学校行事 ・いろいろな仕事 ・社会人に向けて ・買い物学習	【歴史+公民】 ・歴史の基本 ・簡単な通史 ・テーマ史 ・社会のしくみ	【歴史+公民】 ・歴史の基本 ・通史 ・社会のしくみ		
高等部	1年生	・社会で使う言葉 ・友だちや先生の名前 ・友だちと遊ぼう ・季節行事 ・服をたたもう ・交通ルールを学ぼう	・社会で使う言葉 ・いろいろな挨拶 ・友だちと遊ぼう ・校内マップづくり ・季節行事、校外散策 ・身だしなみチェック	・社会で使う言葉 ・いろいろな挨拶 ・友だちと遊ぼう ・校内マップづくり ・季節行事、校外散策 ・身だしなみチェック ・災害について知ろう	・自分の地域を知ろう ・都道府県 ・公共施設/交通機関 ・目的地まで行く方法 ・日本の歴史 ・国産と外国産 ・防災について知ろう	・大阪について調べよう ・様々な交通手段 ・危険予測トレーニング ・都道府県/日本の産業 ・日本の歴史 ・世界の国々 ・防災マップ	・日本の歴史的事象 ・日本の地形 ・世界の様子 ・選挙制度 ・日本の災害 ・食糧自給 ・模擬投票	・平和について ・日本と周辺国 ・日本の歴史的事象 ・日本の災害と対策 ・日本の工業 ・模擬投票
	3年生	・社会で使う言葉 ・挨拶をしよう ・正しい挨拶をしよう ・校外散策をしよう ・お手伝いをしよう ・新聞にふれよう ・千支を知ろう	・社会で使う言葉 ・正しい挨拶をしよう ・校外施設の利用 ・お手伝いをしよう ・自分新聞に作ろう ・カレンダーを作ろう	・社会で使う言葉 ・正しい挨拶をしよう ・学校周辺マップ作り ・お手伝いをしよう ・マークを知ろう ・友だち新聞を作ろう ・カレンダーを作ろう	・マナーについて学ぼう ・仕事について学ぼう ・法律について学ぼう ・選挙制度について ・防災マップを作ろう ・文化の違いについて	・マナーについて学ぼう ・進路について学ぼう ・法律について学ぼう ・模擬投票をしよう ・仕事インタビュー ・文化の違いについて	・食材の産地について ・外国の特徴について ・選挙制度について ・模擬投票をしよう ・人権について ・憲法について	・平和について考えよう ・食材の産地について ・選挙制度について ・模擬投票をしよう ・人権について ・権利について

各学部使用教科書

小学部	『サンドイッチでんしゃ』『やさしくわかるぼうさい・ぼうはんのえほん』『こうつうあんぜんどうするの?』『ちょこっとできるびっくりあそび!』『水のふしぎあそび』 『たべるのだいすき!』『ほんとのおおきさ動物園』
中学部	『世界とであうえほん』『きっずジャポニカ・セレクション 10すまでに知っておきたい 日本まるごとガイドブック』『福音館の科学シリーズ 絵で見る日本の歴史』『新しい社会 地図』 『写真記シリーズ 食べもの記』『にっぽんちず絵本』『みぢかなかがくシリーズ 町たんけん』
高等部	『見て遊んで楽しく覚える!よくわかる!日本の都道府県第2版』『はじめての日本地図絵本』『基本地図帳 改訂版』

４、５か年計画の５年めと今後

５か年計画は、令和６年度に約９割の作業は完了した。令和７年度は、【表１】のとおり完成(暫定)したシラバスを運用しながら、学習内容の確認を行うとともに表記方法等のずれや不具合を全校時に調整し、修正していくこととする。これを以て摂津支援学校のシラバスは“完成”とし、【表４】の流れで、その後３年毎に見直しをする計画としている。

【　表４　】

年度	内容	備考
令和　７年度	シラバス検討会議　　最終確認	５か年計画５年目
令和　８年度	―	様式３で反省・申し送り
令和　９年度	―	様式３で反省・申し送り
令和１０年度	**シラバス検討会議**	**単元等の追加・削除**
令和１１年度	―	様式３で反省・申し送り
令和１２年度	―	様式３で反省・申し送り
令和１３年度	シラバス検討会議	

５、おわりに

全校的に取組み、５年を要したシラバス作成も次年度で一定の区切りとなる。今回作成したシラバスが運用されることで、

①各授業科目の授業計画の大要(大体の要点)が明確になる。

②自立活動の視点＋キャリア教育の視点＋教科の視点をもつ。

③計画性のある授業計画を立案しやすくする。

④転勤者や初任者でも本校の授業内容をスムーズに把握し、授業を実践しやすくする。

⑤誰が授業を担当しても一定の水準で指導できる＝指導の平準化。

⑥教科目標・内容と学習評価の一体化をめざす＝指導と評価の一体化。

これらの点に改善が図られ、児童生徒のよりよい学習活動が保障されるようになると考えらえる。④に関しては、児童生徒に対するメリットに加えて昨今全国的に推進されている働き方改革にも繋がると考えている。一方で、②に関連し「学習指導要領小学部１段階の内容に満たない児童生徒の学習活動をどうするか」ということが今後の課題として挙げられる。

本校は知的障がい支援学校であり、各学部とも自立活動の時間は設定されているが、まだまだ工夫や改善が必要な状況である。各教科における指導の場面でも、自立活動の視点を組み込んで指導にあたっているが、今回のシラバスの内容には多くは取り入れられていない。

府内共通のシラバスの様式１、様式２で検討を進めたため、項目にない内容については盛り込みにくかった側面もあったと思われる。しかし、とくに国語と算数(数学)では、文字や数前の指導が必要な児童生徒に対して、どのように学習活動を設定し、アプローチしていくか、考えていかなければならない。

大阪・関西万博プロジェクト

―「いのち輝く未来社会のデザイン」と連動した学習―

教育課程検討委員会/教務部長/首席　日高 匠

１、はじめに

令和７年度に大阪府で日本国際博覧会(以下、大阪・関西万博)が開催されることが決まり、「いのち輝く未来社会のデザイン」のテーマが示された。本校では、それに合わせて令和６～７年度の２年間で「いのち輝く未来社会のデザイン」に関連した学習に取組むこととした。ここでは、その取組みについて紹介することにする。

２、計画にあたって

令和６年度学校経営計画の中期的目標「新しい教育課題・組織課題への対応」の一つとして本プロジェクトが掲げられた。

大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」を基に、地球環境・人権・多様性・国際理解等、健康、平和、協働、共生社会、生命等に関連する教育活動計画を立てることとなった。以下が立案した内容である。

１、内容　▸本テーマを題材に、現学習指導要領で求められているカリキュラム・マネジメントに取り組む。
▸１つの共通したテーマに全校で取り組むことで、コロナ禍で希薄になった学部・学年間の繋がりを意識する。
▸わたしたちが住む大阪で開催される国際的(グローバル)な祭典について学習をすることで、地域を大切にする態度や未来技術等への興味・関心を育む。

２、方法　▸既存のシラバスを参照し、本テーマに関連する単元や学習内容を抽出して「カリキュラム一覧表」を作成する。「カリキュラム一覧表」を活用しながら授業を展開する。

３、期間　▸令和６年４月８日～令和８年３月２０日(２年間)

４、対象　▸小学部・中学部・高等部 全学年

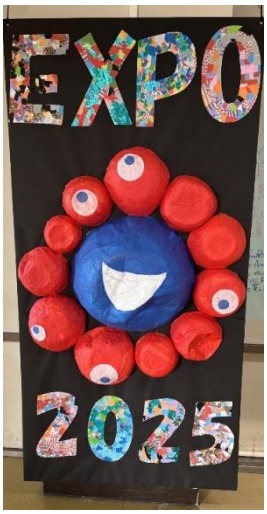
５、担当　▸研究・研修部
　　▸教育課程検討委員会（シラバス）
　　▸首席等連絡会

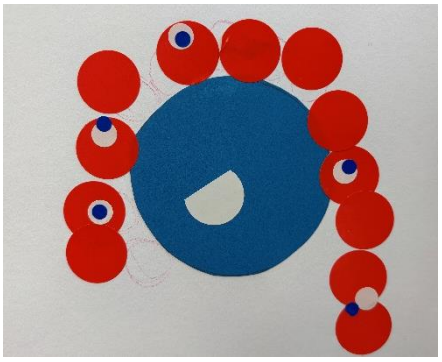
６、予定　▸令和６年度…「カリキュラム一覧表」の作成と『研究紀要』への寄稿
　　▸令和７年度…「カリキュラム一覧表」を活用した授業実践。
　　※何らかの形での発表、展示または報告を計画。

これらの内容を令和６年度当初より全体周知をし、プロジェクトに取組んだ。プロジェクトを進めるにあたり、各学部・各学年で取組む学習内容について検討し、各教科研究会でのシラバス作成と並行して「カリキュラム一覧表」の作成を進めていった。

３、「カリキュラム一覧表」の作成

令和６年度に各学部、各教科研究会で作成した一覧表が章末ページのとおりである。各教科から抽出した単元や学習内容は、前述したとおり、地球環境・人権・多様性・国際理解等、健康、平和、協働、共生社会、生命等と、関連のあるものである。「いのち」と関連する内容は幅広いものであり、且つ解釈をより広義なものとしているので、多種多様な内容が設定されていることが見てとれる。





この一覧表は、令和７年度に向けての準備ではあるが、既にシラバスの内容として実践しているものでもあり、今年度の時点で大阪・関西万博に関連した展示をしている授業もあった。大阪・関西万博の公式キャラクター“ミャクミャク”の制作が多かったが、図工・美術での制作だけでなく、数学での形の学習で、シールを用いたミャクミャクづくりもあり、面白い取組みが散見された。

４、今後の展望

これまでに述べたように、令和６年度は「大阪・関西プロジェクト」と題して、具体的には令和７年度へ向けた「カリキュラム一覧表」の作成に取組んできた。

令和７年度はその「カリキュラム一覧表」を活用した授業実践に取組むこととなる。その他にも宿泊学習中に万博会場の見学、行事への万博要素取入れ等も検討している。

各学部の各教科で、「カリキュラム一覧表」をもとに学習活動に取組むことで、健康やいのちの大切さ、共に生きることのすばらしさ、自分や他者を大切にすることに触れ、それぞれに「いのち輝く未来社会」について考えたり感じたりしてほしいと願っている。

大阪・関西万博プロジェクト　“いのち輝く未来社会のデザイン”と連動したカリキュラム　［小学部］

伸ばしたい力	「いのち」のキーワードに生命・環境・健康・人権・多様性・共生社会・協働・平和・国際理解などについて考えたり触れたりすることで、他者を尊重する心を養う。										
	４月	５月	６月	７月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
学校行事	入学式 始業式	児童生徒会選挙 火災避難訓練 災害時引き渡し訓練	体育祭 校外学習 小5,高２宿泊学習 プール	中２宿泊学習 終業式	始業式 ８８０万人訓練 校外学習	中３修学旅行 高３修学旅行 小６修学旅行 校外学習	学校祭	学部発表会(小) 地震津波避難訓練 終業式 進路・受験指導	始業式 マラソン	校外学習 卒業生を送る会	卒業証書授与式 修了式
国語	（全）挨拶をしよう 呼名に返事をしよう	（１年）はらぺこあおむし	（４年）どうぶつのおかあさん			（高学年）上手にやり取りしよう					
算数・数学											
社会/生活		（全）火災避難訓練事前学習	（全）交通安全教室事前事後学習		（全）地震避難訓練事前学習			（全）地震津波避難訓練事前学習			
理科/生活	（全）夏野菜苗植え	（全）さつまいもの苗植え	（全）夏野菜の収穫	（全）夏野菜収穫 (4年)季節の生き物	（全）冬野菜の苗植え	（全）さつまいもの収穫		（全）冬野菜の収穫			
音楽											
図工・美術 窯業				（小３）友だち「人権作品」							
保健体育											
職業											
家庭・布加工											
キャリア ワーク											
情報 情報英語											
道徳	（小４）友だちとの距離感	（小３）赤ちゃんの成長 （小４）パーソナルスペース・プライベートゾーン	（小１）『みのまわりのきほん』顔・口・手をきれいにする。 （小２）『みのまわりのきほん』いきもののせわ	（小３）友だち「人権作品」	（小２）産道体験 （小５）男の子女の子 （小６）からだのちがい	（小２)赤ちゃん人形の抱っこ体験	（小１）赤ちゃん人形の抱っこ体験 （小２）『みのまわりのきほん』からだのおていれ （小５）男の子のからだ （小６）男の人のからだ	（小５）女の子のからだ （小６）女の人のからだ	（小１）産道体験	（小４）１／２成人式	
自立活動	（全）いのち輝く未来社会のデザイン遊具で体を動かそう										
総合学習											
特別活動											
学校保健計画(仮)	自分の体を知る。	体を清潔に保つ。	歯を大切にする。 熱中症に気をつける。	暑さに負けない体をつくる。	積極的に体を動かす。	目を大切にする。	手洗い・うがいをする。	寒さに負けない体をつくる。	規則正しい生活をしよう。	疾病から身を守ろう。	耳を大切にする。

道徳の性教育と合わせて学習を行っている。

大阪・関西万博プロジェクト　“いのち輝く未来社会のデザイン”と連動したカリキュラム　［中学部］

伸ばしたい力	「いのち」のキーワードに生命・環境・健康・人権・多様性・共生社会・協働・平和・国際理解などについて考えたり触れたりすることで、他者を尊重する心を養う。										
	4月	5月	6月	7月	9月	１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月
学校行事	入学式 始業式	児童生徒会選挙 火災避難訓練 災害時引き渡し訓練	体育祭 校外学習 小5,高２宿泊学習 プール	中２宿泊学習 終業式	始業式 ８８０万人訓練 校外学習	中３修学旅行 高３修学旅行 小６修学旅行 校外学習	学校祭	学部発表会(小) 地震津波避難訓練 終業式 進路・受験指導 →	始業式 マラソン	校外学習 卒業生を送る会	卒業証書授与式 修了式
国語	（中１）絵本の読み聞かせ （中１～中３）自己紹介	（中１～中３）詩		（中１～中３）書写 （中１～中３）読みきかせ		（中１）自分の気持ちを伝えよう		（中１～中３）書写			
算数・数学				（中１～中３）時計 スケジュール、時間				（中１～中３）時計 スケジュール、時間			（中１～中３）時計 スケジュール、時間
社会/生活		(中１)世界の料理	(全)季節行事		(中2)リサイクル	(中１)世界の料理 (中3)社会のしくみ	(全)季節行事 (中１)世界の料理 (中３)戦争と平和	(全)季節行事 (中１)世界の料理	(全)季節行事 (中１)世界の料理	(全)季節行事 (中１)世界の料理	(全)季節行事 (中１)世界の料理
理科/生活		(中 1)バケツ稲栽培 (中１)植物の成長	(中 1)バケツ稲栽培	(中 1)バケツ稲栽培 (中)動物の成長 (中)昆虫の成長	(中 1)バケツ稲栽培	(中3)人の体	(中3)天気と大地				
音楽	全学年　表現活動　鑑賞（日本、他、海外の音楽に触れられる） 歌詞の内容深堀り（協力など）										
美術	（中３）共同制作 「海の生き物」	（中３）共同制作 「海の生き物」	（中３）共同制作 「海の生き物」	（中３）共同制作 「海の生き物」	（中１２３）共同制作 「ミャクミャクの花」	（中１２３）共同制作 「ミャクミャクの花」	（中１２３）共同制作 「ミャクミャクの花」				
保健体育	（中１・２・３） 体調管理について		（中１・２・３） プール事前学習「心肺蘇生法」	（中１） 熱中症について 怪我の防止、病気の予防・健康管理について	（中１・２・３） 体調管理について		（中１・２・３） ダンス「この地球の続きを」		（中１・２・３） 体調管理について	（中１・２・３） ダンス「この地球の続きを」	
職業	栽培学習・共同作業 (通年) →										
家庭・布加工	（中１）家庭の仕事体験 （中２）栄養 （中３)子供の成長	（中１）家庭の仕事体験 （中２）栄養 （中３)子供の成長	（中１）清掃道具の製作 （中２）献立を立てる （中３)子供の成長	（中１）清掃道具の製作 （中２）献立を立てる （中３)子供の成長	（中１）調理器具の使い方 （中２）ゴミの分別 （中3)エコ工作	（中１）簡単な調理 （中２）ゴミの分別 （中3)エコ工作	（中１）ｴｺﾊﾞｯｸﾞ製作 （中２）ﾘｻｲｸﾙ小物作り （中3)食品の栄養	（中１）ｴｺﾊﾞｯｸ製作 （中２）ﾘｻｲｸﾙ小物作り （中3)食品の栄養	（中１)防災について考える （中２）伝統食や行事食 （中3)食品の栄養	（中１)防災について考える （中２）伝統食や行事食 （中3)食品の調理	（中１）防災調理 （中２）
キャリア	(全)作業学習（通年） あいさつ・みだしなみ		(中3)職場見学	(中3)職場見学				(中3)校内実習	(中２)校内実習	(中3)販売実習	(中２)販売実習
情報・情報英語											
道徳	(中 1)つながりあそび (中2)私すごろく (中3)他者紹介	(中 1)あいさつ (中2)身だしなみと清潔 (中3)感染症・熱中症	(中 1) ペアゲーム (中2)性について (中3)清潔について	(中 1)プライベートゾーン (中2)他者との距離感 (中3)気持ちを考える	(中１友達との距離の取り方 (中2)社会について (中3)人権教育啓発	(中 1)生命について (中2)生命について (中3)生命の尊重	(中 1)生命の誕生 (中2)病気の予防 (中3)こころとからだの学習	(中 1)季節を生かした活動 (中2)季節を生かした活動 (中3)生命の尊重	(中 1)生命の尊重 (中2)伝承あそび (中3)中学部の振り返り	(中 1)時事問題 (中2)将来について (中3)高校生にむけて	(中 1)一年間の振り返り (中2) (中3)
自立活動											
総合学習	(全学年) 性に関する学習 →										
特別活動											

大阪関西万博プロジェクト　“いのち輝く未来社会のデザイン”と連動したカリキュラム　［　高等部　］

伸ばしたい力	「いのち」のキーワードに生命・環境・健康・人権・多様性・共生社会・協働・平和・国際理解などについて考えたり触れたりすることで、他者を尊重する心を養う。										
	4月	5月	6月	7月	9月	１０月	１１月	１２月	1月	2月	3月
学校行事	入学式 始業式	児童生徒会選挙 火災避難訓練 災害時引き渡し訓練	体育祭 校外学習 小5,高2宿泊学習 プール	中2宿泊学習 終業式	始業式 ８８０万人訓練 校外学習	中3修学旅行 高3修学旅行 小6修学旅行 校外学習	学校祭	学部発表会(小) 地震津波避難訓練 終業式 進路・受験指導 →	始業式 マラソン	校外学習 卒業生を送る会	卒業証書授与式 修了式
国語	（高１・２・３） あいさつをしよう 自己紹介	（高１・２・３） あいさつをしよう ひらがな・漢字	（高１・２・３） あいさつをしよう ひらがな・漢字	（高１・２・３） あいさつをしよう 絵本や物語の視聴・読解	（高１・２・３） あいさつをしよう 感想・作文	（高１・２・３） あいさつをしよう ひらがな・漢字	（高１・２・３） あいさつをしよう ひらがな・漢字	（高１・２・３） あいさつをしよう 絵本や物語の視聴・読解	（高１・２・３） あいさつをしよう 感想・作文	（高１・２・３） あいさつをしよう ひらがな・漢字	（高１・２・３） あいさつをしよう 思い出の発表
算数・数学		体の大きさ、重さ			グラフの読み取り（人口など）	グラフの読み取り（人口など）					
社会/生活	（高１）日本の国土と生活 （高３）社会参加ときまり	（高１）日本の国土と生活 （高３）社会参加ときまり				（高１）地域の安全、日本の自然災害	（高１）地域の安全、日本の自然災害 （高３）外国の様子	（高３）外国の様子			
理科/生活	（高１）自然観察 （高２）自然観察	（高１）植物 （高２）昆虫・動物	（高１）太陽と地面の様子 （高２）光の性質	（高１）ゴムの力 （高２）磁石の力	（高１）防災：台風。大雨 （高２）防災：台風・大雨	（高１）自然観察 （高２）自然観察	（高１）天気と気温 （高２）体のつくり	（高１）防災：地震・火事 （高２）防災：地震・火事	（高１）風の力 （高２）電気の力	（高１）風の力 （高２）電気の力	
音楽	（高１・２・３）歌唱 小物楽器、手拍子、身体表現あり	（高１・２・３）歌唱 小物楽器、手拍子、身体表現あり	（高１・２・３）歌唱 小物楽器、手拍子、身体表現あり	（全）みんなで歌おう （終業式後の学部集会） 指揮：生徒会長							
図工・美術 窯業		（高１）作品鑑賞	（高１）作品鑑賞	（高３）オリジナルデザインの小物入れ作り	（高３）オリジナルデザインの小物入れ作り	（高２）粘土で生き物を表現する	（高２）粘土で生き物を表現する （高１・２・３）作品鑑賞				
保健体育				プール 場の安全の確保	ダンス 「この地球の続きを」	障碍者スポーツ ニュースポーツ	障碍者スポーツ ニュースポーツ	運動の効果と学び方 傷害の防止	運動の効果と学び方 傷害の防止		
職業	社会で使うことば （通年） →									卒業生による進路講演会	
家庭・布加工	(高３)人生設計	(高２)栄養について	(高３)妊娠や出産	(高２)安全な食生活 (高３)乳幼児の生活				(高３)環境に配慮した消費			
ワーク	春野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）	春野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）	夏野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）	夏野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）	秋・冬野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）	秋・冬野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）	秋・冬野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）	秋・冬野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）	秋・冬野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）	秋・冬野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）	春野菜づくり（GM） 身の回りの清潔（清掃）
情報 情報英語							（高３）情報の取り扱い（情報）	(高３)情報の取り扱い（情報）			
道徳	自己紹介	ことばづかい いじめ問題	人前での発表	姿勢	電話のかけ方	散策	芸術鑑賞	スポーツ鑑賞	集団あそび	礼状の書き方	パーソナルスペース
自立活動	・身体の使い方 ・人との関わり方　他 →										
総合学習			きょうだい学年交流 （異年齢交流）	性に関する指導			きょうだい学年交流 （異年齢交流）	性に関する指導		きょうだい学年交流 （異年齢交流）	性に関する指導
特別活動				選択活動 （余暇、学部間交流）				選択活動 （余暇、学部間交流）		選択活動 （余暇、学部間交流）	

Ⅲ　研究・実践の報告・発表②

学校コンサルテーション事業の取り組み

強度行動障がいコンサルテーション　事例報告

支援部・支援グループ

１　コンサルテーション事業の概要

令和６年度教育と福祉の連携事業の「強度行動障がいコンサルテーション」に応募し、本校が今年度のコンサル校として決定した。

○目的

教育機関（支援教育課、府立支援学校）と連携してコンサルテーション事業を行うことにより、教育分野での行動障がい支援に対する理解を深め、障がい特性に配慮した支援方法の普及を図る。また、対象事例への助言を基に、リーディングスタッフ(LS)等を中心に学年や学部、校内で支援手法が共有、蓄積されることを目的とする。これらを通じて、学童期における強度行動障がいの重度化を予防するとともに、将来的に障がいのある方の地域生活への移行が促進されることを目的としている。

○事業内容

①事前研修会・座談会

研修会：コンサルテーションの実施にあたり、スーパーバイザー(SV)より、行動障がい支援に関する講義を行う。

座談会：前年度のコンサル校のLSを招いて、今年度のLSが取り組みのノウハウなどを聞ける場を持つ。

②コンサルテーション

SVを学校に招き、行動障がい支援について支援手法を検討し、助言する。

校内事例検討会を実施する。

③報告会

コンサルテーションでの助言を踏まえ、試行実施した支援状況について報告し、重ねて事例検討、意見交流等を行う。

○SV：学識経験者

畿央大学　教育学部　現代教育学科　大久保　賢一　教授

２　事例報告

本事業においてコンサルテーションを受けた２つの事例について報告する（個人情報保護の観点から、内容を一部加工している）。

【ケース 1】

（１）事例の概要

小学部 B さん　神経発達症　染色体異常

コミュニケーションは、特定の人・場所とのみ関わる「場面緘黙傾向」がある。気持ちがうまく伝わらなかったときなどに自傷・他傷が出ることがある。日常生活では、食事や排泄は全介助であり、生活全般にわたって支援・見守りが必要な児童である。

〇課題となっている行動

自分を叩いたり、教員や他の児童に対して手が出たりする。

〇これまでの対応方法

自傷・他傷行為に対して、支援者が本児の気持ちを代弁し落ち着きを促す。

（２）コンサルテーション

注意引きの目的で自傷・他傷行為が出た場合は「ハイタッチ」に置き換え、気持ちの切り替えを促す。目標を「本児の『注目してほしい』という気持ちを満たし、問題行動を減らすこと」に設定してアセスメントを実施した。方法には①MAS（Motivation Assessment Scale　問題行動となる行動の機能分析）②氷山モデル　③ABC 分析を用いた。

①　MAS

課題となっている行動について、16 の設問に該当する答えを「0 全くない」から「6 いつもある」の 6 段階で評価した。結果(平均値)は「感覚」が 0.75、「逃避」が 3、「注目」が 5.5、「要求」が 3 という結果であったが、観察においては「注目」の機能が強いということがうかがわれた。

②　氷山モデル

氷山モデルとは、課題となる行動を水面上の氷山の一角と捉えて、氷山の一角に注目するのではなく、その水面下の２つの要因（本人の特性と環境・状況の要因）に着目し、行動支援を計画するもの。問題解決のためには水面上に見える課題となる行動に加えて、水面下に隠された背景を掴んで支援を検討することが必要とされる。

本生徒に合わせた支援を考えるために、課題となっている行動について、本人の特性

と環境・状況の要因から整理した（図 1)。環境・状況の要因として、本児の注目欲求が満たされないと感じた時や、気持ちの揺れがあると自傷・他傷行為が出現することが多いと思われた。

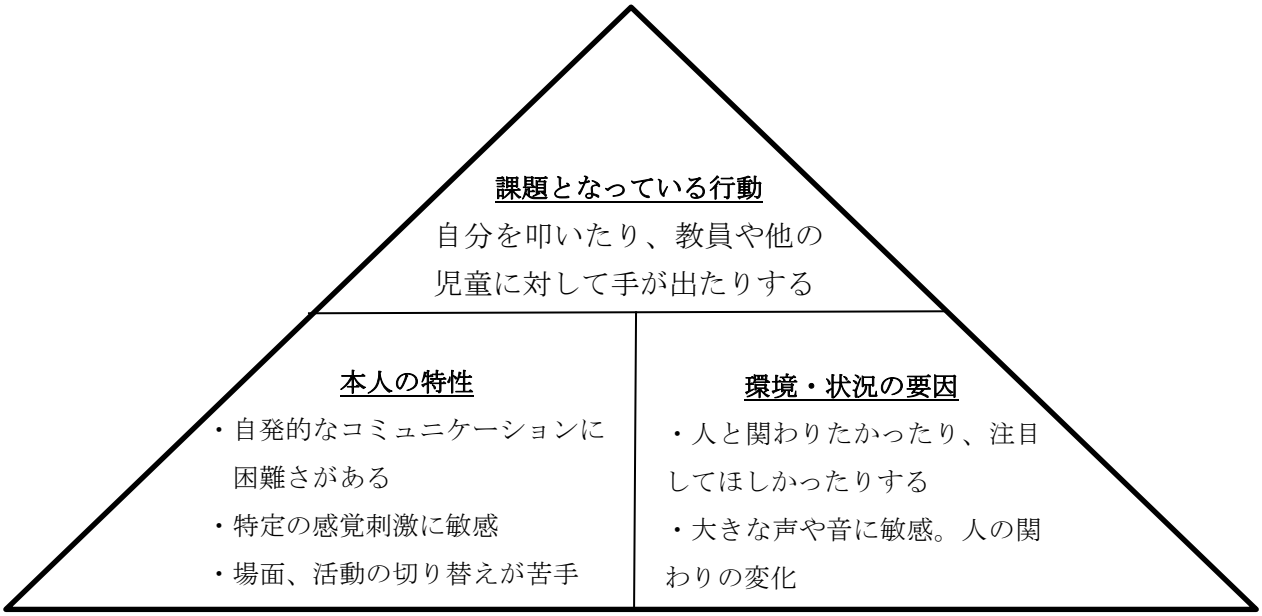


図 1　氷山モデルによる課題の整理

③　ABC 分析

課題となっている行動を「A 行動のきっかけ」「B 行動」「C 行動の結果事象」にわけて整理した。その結果「自傷・他傷行為は注意引きの行動（負の強化)」であると仮定された（図 2)。

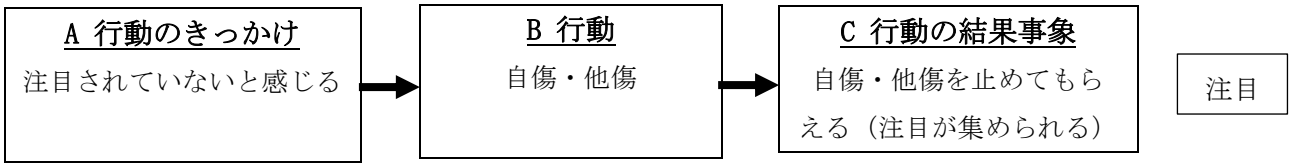


図 2　課題となる方法の ABC 分析

④　SV の助言

・注意引きの行動は「ハイタッチ」に置き換えることで自傷・他傷が減少しているので継続する。

・「イヤ」など自分の気持ちを言葉に出して表現することができるようになったので、場面緘黙に対して、逃避や手伝いのコミュニケーション手段を検討する。

・一緒に行動したい人を選択できるように、カードやコミュニケーションボードの利用を進める。

（３）支援の実際

①　支援方法

・注意引きの行動に対して「ハイタッチする？」などの言葉かけをし、気持ちの表出を促す。

・うまく気持ちが表出できた時は、大げさに褒めるなど成功体験を積ませる。

・気持ちの波があるときは、支援者と二人きりの時間を作るなど、気持ちの安定を図る。

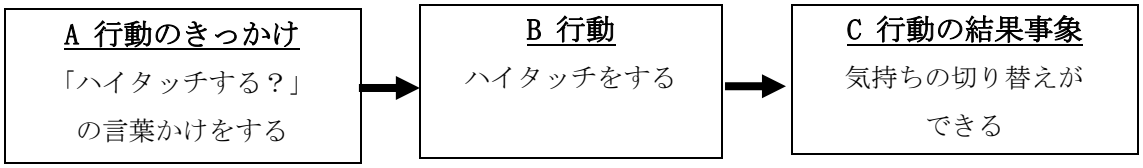


図３　ハイタッチ法による支援

②　結果

主体的に活動を行う場面が増え、自傷・他傷が減った（図 4)。自発的に気持ちの切り替えができることもあった。

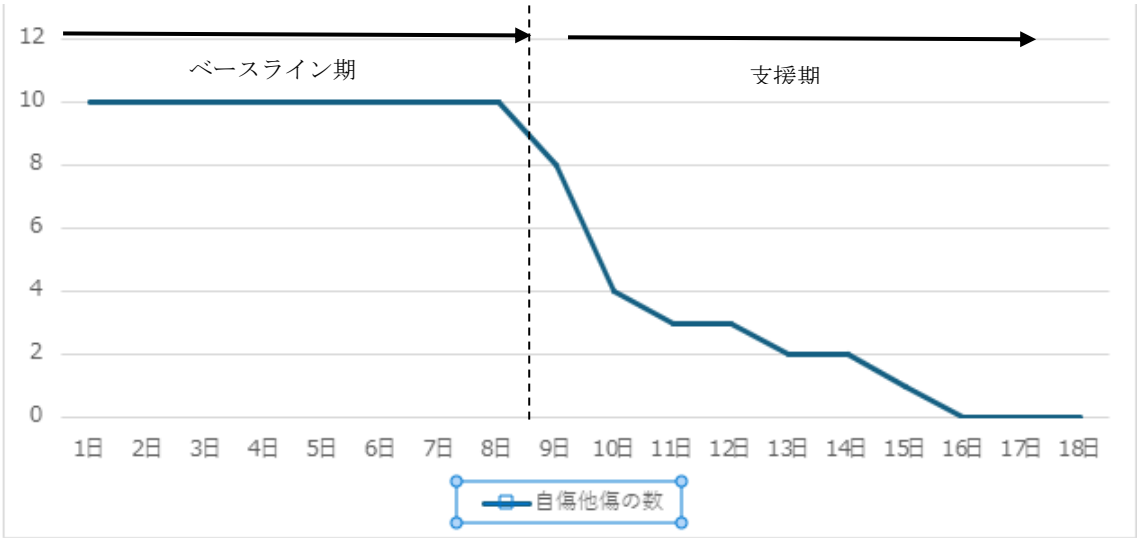


図４　自傷他傷の数

③　今後の課題

ハイタッチに置き換えたことで、自傷・他傷が無くなるとともに、声に出して「イヤ」などの意思表示をすることが増えた。

また、カードを選択することができるようになってきたので、より多くの選択肢が持てるように支援を広げていくことが今後の課題である。

【ケース 2】

（１）事例の概要

中学部 A さん　自閉スペクトラム症　神経発達症

コミュニケーションは、一語文程度の言葉で伝えたり、直接物を取りに行ったりして意思を伝えることができる。学校生活の一日の流れは理解しており、トイレに行きたいときは、自分から伝えることができる。また教師の言葉かけで、活動の終わりを理解することができる。日常生活は、食事や排泄は自立しているものの、生活全般にわたって支援・見守りが必要な生徒である。

〇課題となっている行動

授業中に離席することがあり、活動への参加が難しい。

〇これまでの対応方法

離席したときは、教員の言葉かけでいすに座るように促す。

（２）コンサルテーション

目標を「授業に参加し、課題をすること」に設定し、「いすに座ること」を目的行動としてアセスメントを実施した。方法には①MAS（Motivation Assessment Scale　問題行動となる行動の機能分析）②氷山モデル　③ABC 分析を用いた。

①　MAS

課題となっている行動について、16 の設問に該当する答えを「0 全くない」から「6 いつもある」の 6 段階で評価した。結果(平均値)は「感覚」が 4、「逃避」が 2.75、「注目」が 1.5、「要求」が 4 という結果であったが、観察においては「逃避」の機能が強いということがうかがわれた。

②　氷山モデル

本生徒に合わせた支援を考えるために、課題となっている行動について、本人の特性と環境・状況の要因から整理した（図 1)。環境・状況の要因としては、授業内容に興味関心が持てなかったり、長時間いすに座っていられなかったりすることが背景にあることがうかがわれた。

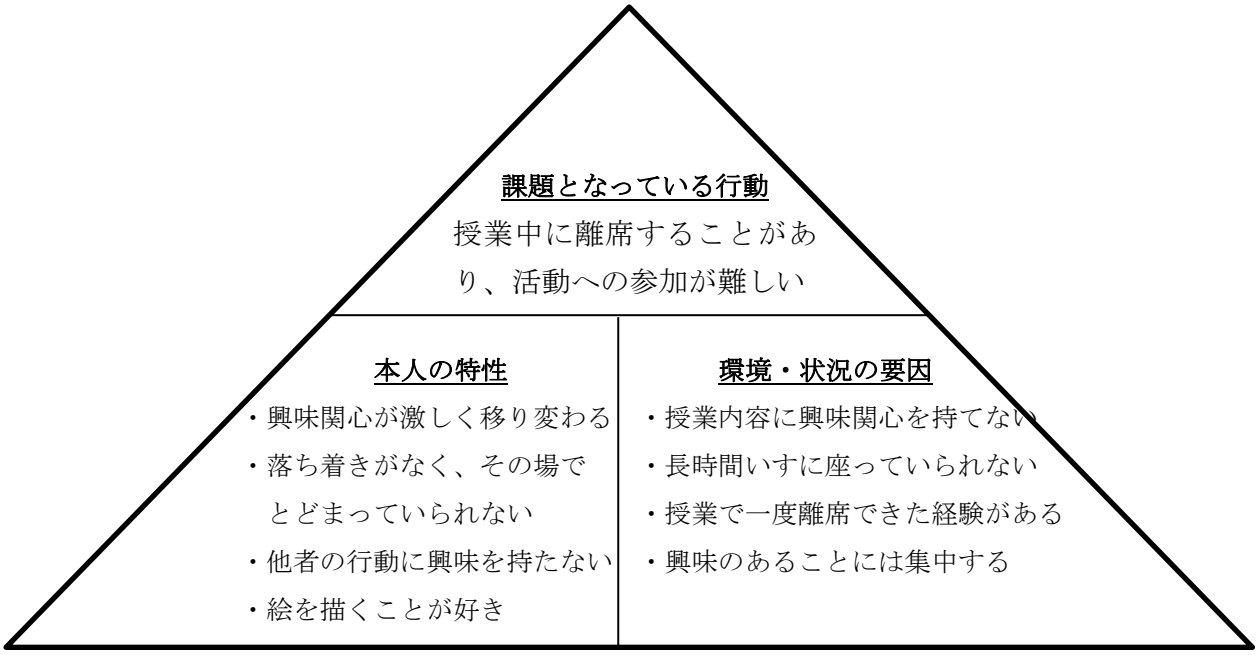


図 1　氷山モデルによる課題の整理

③　ABC 分析

課題となっている行動を「A 行動のきっかけ」「B 行動」「C 行動の結果事象」にわけて整理した。その結果「離席するのは、課題から逃避するため（負の強化)」であると仮定された。(図 2)

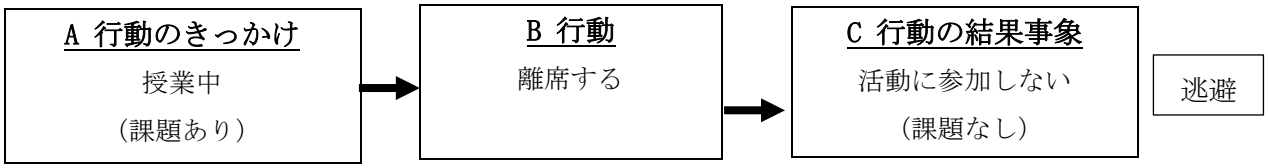


図 2　課題となる方法の ABC 分析

④　SV の助言

・支援の核となるのは動機づけとなるお楽しみ（強化子）の設定になる。現在は内発的動機づけの設定が難しいため、外発的動機づけにより活動に参加することで習慣化をめざす。

・まず動機づけとなるお楽しみを検討する。タブレット、音楽、ほめること、ぬり絵、スキンシップなど、できるだけ多くの動機づけのバリエーションを増やす。

・トークンエコノミーを活用する。課題を終了したら初めはシールを 1 つ貼って、お楽しみを提供する。まずはシールとお楽しみを結びつける。細かく何回も強化する機会をつくる。

（３）支援の実際

①　支援方法

・授業中に「いすに座って課題をする」行動を定着させるために、トークンエコノミー法を活用して支援を行った（図 3)。初めはシールと強化子を結びつけるために、ごく簡単な課題ができたらシールを貼り、すぐに強化子を提供した。

・「シール１つ→強化子の提供」の流れが安定したら、提供するまでのシールを徐々に２つに増やしていった。またすぐに提供するのではなく、休憩時間になったらなど時間差で提供するようにした。

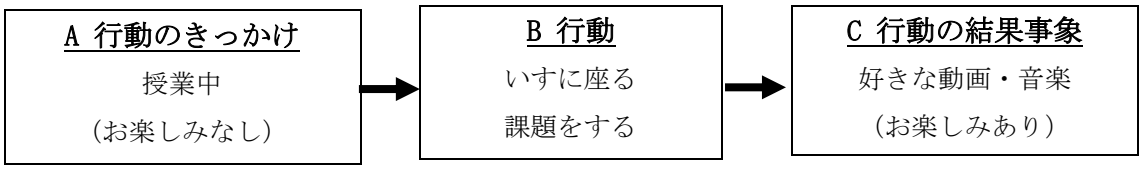


図 3　トークンエコノミー法による支援

②　結果

一日を通して「〇活動に参加できた」「△活動に少しでも参加できた」「×活動に全く参加できなかった」を観察し、行動の記録を取った。トークンエコノミーによる支援を開始してから、2 日目から参加できなかった回数が減少した（図 4)。

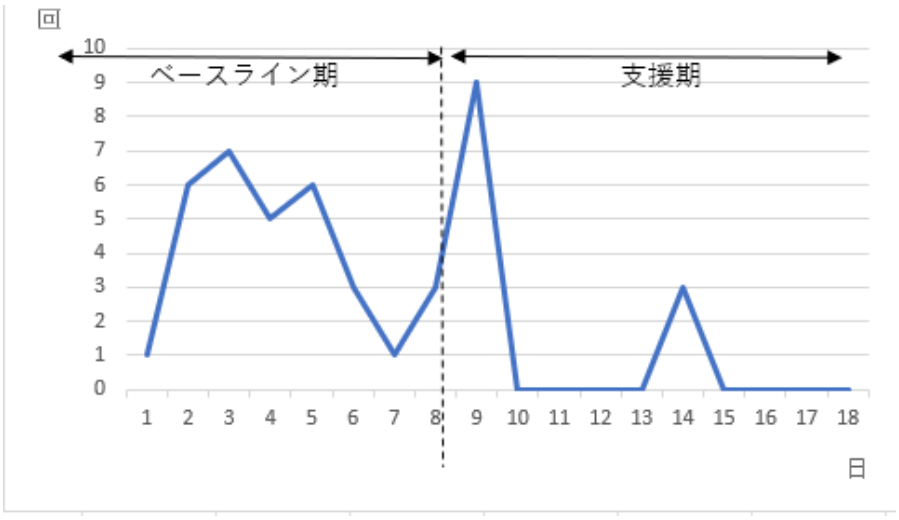


図 4　活動に全く参加できなかった回数

③　今後の課題

トークンエコノミーによる支援を始めてから、支援前と比べて明らかに活動に参加できる時間が増えた。本人はトークンの意味をすぐに理解し、即時に強化子がなくてもあとで強化子がもらえることがわかってからは、課題に見通しを持って取り組むことができるようになった。また休憩時間にごほうびタイムを設けることで、強化子を本人が選ぶことができ、ごほうびのバリエーションが増えた。強化子の終了を知らせるタイマーも効果的で、タイマーが鳴ると強化子を手放すことができるようになった。

しかしながらトークンを用いても特定の授業は離席することがあり、別の環境の要因がないかを検討する必要がある。またトークンを用いる際に支援者との関係性も結果に左右することがあるため、誰が支援に当たっても機能するように強化子をさらに充実させていく。

卒業後を見据えて、トークンエコノミーを用いた支援を家庭や事業所においても継続することが今後の課題である。

3　まとめ

今年度「教育と福祉の連携事業 強度行動障がいコンサルテーション」において、２つのケースについて専門家からの助言を受けながら、支援を実施した。実際に支援に当たった担任からは児童生徒のよい変容があったと報告があった。SV の助言をもとに校内で支援方法を考える中で、行動障がい支援に対する理解が深まり、障がい特性に配慮した支援方法を協議して決めることができたことは大きな成果といえる。

しかしながら、校内で支援手法を共有、蓄積することについては課題が残った。行動支援についての講義や事例検討会への出席は関係者が中心で、全校としての関心の低さがうかがわれた。新しい支援手法をどのように普及、蓄積していくかが今後の課題である。

Ⅳ　講演会記録

講演会資料

「自己肯定感を高める指導・支援」

梅花女子大学　伊丹昌一　教授

チャレンジ&エレガンス
梅花女子大学
BAIKA 1878

自己肯定感を高める指導・支援
～ユニバーサルデザインの視点で～

梅花女子大学／大学院
伊丹昌一

セルフエスティームについて

- 「self-esteem」は「自己肯定感、自尊心、自尊感情、自己評価、自己有用感、自己重要感」と日本語訳されます。この言葉ひとつひとつを厳密に使い分けることもできますが、子どもの場合は他者の評価を含めた自己有用感が大切といわれています

日本セルフエスティーム普及協会

自己肯定感

- そのままの自分を認め受け入れ、自分を尊重し、自己価値を感じて自らの全存在を肯定する「自己肯定感」の感覚は、「自分は大切な存在だ」「自分はかけがえのない存在」だと思える心の状態
- 自分は尊重するが、相手や周りは、尊重しない、自分の価値は認めるが、相手の価値は認められない、どちらかというと自分さえよければいいと身勝手な思考、行動をとりやすい傾向の人は「自己肯定感」が高いとは言えない

日本セルフエスティーム普及協会

自己肯定感の高い子

- 何事にも積極的に行動することができ、失敗しても落ち込みすぎず、「どうすればよいのか」と考えて次に活かすことができる
- 自分を大切に思う感覚があるため、人と自分を比べて落ち込んだり、妬んだりすることなく、周りの人に思いやりを持って接することができる

自己肯定感の低い子

- ネガティブなことを言い、自分自身に批判的
- 自分のダメな部分に焦点を合わせ、自分の良い面を無視する
- 物事がうまくいかないときに自分を責める
- 他の人が自分よりも優れていると思う
- 自分は楽しむ価値がないと思っている
- ほめ言葉を受け入れない
- 失敗を恐れて挑戦を避ける
- 不承認や批判に過剰に動揺する
- 過剰に落ち込む、恥ずかしがる、怖がる、怒る

自己有用感

- 他者の存在を前提として自分の存在価値を感じること（自分に対する他者からの評価）
- 誰かの役に立ちたいという成就感
- 誰かに必要とされているという満足感
- 類似の言葉に「自己肯定感」があるが、「自己有用感」は「自己肯定感」と比べ、他者の存在を前提としているという点に違いがある

北島貞一「自己有用感 －生きる力の核－」，田研出版，1995

自己有用感を支える要素

1 自然体験の重視
自然体験の中から工夫し耐えることを学ぶ
2 遊びの見直し
集団の秩序を守ることの大切さと相手との関係で生活の知恵を身に付ける
また、他への思いやりやいたわりの気持ちが育つ
3 共同体験の大切さ
共同で作業することを通して、協力・奉仕の心の育成

自己効力感

- 自己効力感とは、目標を達成するための能力を自らが持っていると認識すること
- 「自分ならできる」「きっとうまくいく」と思える認知状態
- 発達性学習症特性のある子は特に低下させやすい

https://mba.globis.ac.jp/careernote/1302.html

二つの学力

- 高次の学力（考える力）
- 低次の学力（単純に読む・書く・計算するといったスキル）
- 昭和の時代は発達症の理解がなく、スキルの低い子はダメな子のイメージ
- 無駄な努力よりも合理的配慮の視点を
- 二次的な問題としての学習性無力感を予防

合理的配慮

- 楽をさせることやえこひいきではない
- スタートラインをそろえること

- 困っている子どもへの合理的配慮の不提供は差別になる（障害者差別解消法）

意欲があれば人はどこまでも伸びる！

- 楽しい！ できた！ ➡意欲
- 人の原動力は意欲
- 意欲は人を徹底的に強くたくましくする
- 能力があるだのないだの関係はない
- 意欲は能力を超える!!

児童・生徒の実態把握

- 学習：得意・不得意科目（分野）、基礎学習スキルも
- 運動：微細運動（手指の運動）、粗大運動（全身運動）
- 行動：多動性・衝動性、注意の状態、切り替えの問題
- 対人：他者への関心、ルール理解、コミュニケーション
- 情緒：立ち直る力、挑戦しようとする力、感情の起伏
- 嗜好：興味関心に偏りはないか
- その他：姿勢、目の使い方、呼吸法等、愛着反応

愛着に課題のある子どもの特徴

- RAD（反応性愛着障害）
- 困難な状況であってもアタッチメントを求めない、感情表出が乏しい（ASDとの鑑別）
- 初対面の人に非常になれなれしい、養育者から離れても探そうとしない（ADHDとの鑑別）
- 安心できる人との関係が作れていないと、気持ちと裏腹に暴力や暴言、または気持ちを封じ込める

- 挑戦したり立ち直ったりする力が育ちにくい
- 自分を好きと思えていない、人の話をじっくりと聞けない、平気でうそをつく
- マスク（前髪）やフード、コートで身を包み守る
- 文字を書いたり、観察して絵をかいたり、手先を使って工作するなどの細かい作業が苦手
- テストや作品などの評価に過敏で、人と比べて下手とか悪いと思うと落ち込む・攻撃する
- 自分の気持ちや願いを話し言葉で伝えることが難しく、友達と折り合いをつけるなど、自分の気持ちや行動を上手に調整できない

問題行動を特定化する

- 問題行動を一つに限定する

  優先順位をつける、解決できそうなもの、今すぐ対応すべきことなど
- 問題行動を具体化すること

  具体的には？

  機嫌が悪くなる → 怒って手を出す

  わがまま → 自分でやらずにだだをこねる

事例

- 中１の男子。大変元気がよく、みんなと一緒に体を動かすことが大好き
- しかし、ちょっとしたことでかっとなり、暴言や暴力行為が見られる
- そのつど注意をして謝ってはくれるが、また同じことの繰り返し
- 昨日もサッカーをしているときにミスをちょっと指摘されただけで、ケンカ騒ぎに
- みんなはあきれてチームから外してしまいそう・・・

状況の把握

・問題行動は、どんなときに起こりますか？

1．生活場面、時間帯、教科？

2．状況、流れ？

相手がいいものを持っている、ゲームで負けそう

3．相手？

4．きっかけ、ことば、気になる一言

対応と結果

・その問題行動に対し、どう対応しましたか？

叱る、無視、注目

子どもたちの反応

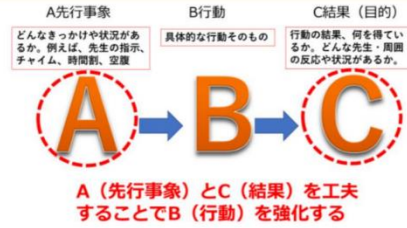
・その結果は？

ますますひどくなった(×)

変わらない(△)

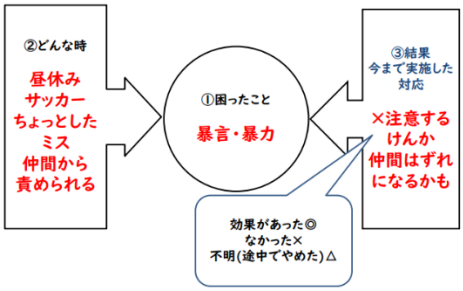
やめた、改善が見られる（○）

行動随伴性による機能的分析（ＡＢＣ分析）



A（先行事象）とC（結果）を工夫することでB（行動）を強化する

問題の分析



ここでチェック

- 問題行動は具体的ですか？
  観察できる、再現できる、記録できる
- 問題行動につながる背景が複数書かれていますか？
  場面、きっかけ、科目、人・・・
- 問題行動に対応した結果が明確ですか？
  指導者の対応、周囲の反応、その結果

子どもの気持ちを推測する

- 注目：注目されたい、認められたい
- 要求：何かが欲しい(注目以外)
- 逃避：嫌だ、やめたい、逃れたい
- 自己刺激：ヒマ

望ましい態度や行為をきめる

- 「子どもに、どうなって欲しいですか？」
- 「何をして欲しいですか？」
- 「どういう言い方が理想ですか？」

子どもの気持ちを考慮し、こうなって欲しいという理想を具体的に考えます
きめた行為は、明日にでも(来週中に)できそうですか？

ギリギリ許せる行為

（できない場合）

- ギリギリ許せる行為や程度は？
- どこまでなら、周囲は受け入れられますか？
- 何とかできそうな行為は何ですか？

望ましい行動：しなければならないこと
ギリギリ許せる行為：子どもが無理なくできそうなこと
問題行動より少しでもマシな行動を伸ばして問題行動減少

望ましい行為ができるために

1. 本人と話し合う
   分析したことをわかりやすく
2. ルールや約束を確認する
   できること、してはいけないこと
3. 望ましい行為をするといいことがある
   こどもにとっていいこと、うれしいことを知らせる
4. 望ましい行為を練習する
   一対一で、繰り返し、遊び感覚で

望ましい結果に何をする？

- どんな褒めことばをかけますか？
- 何か特典を与えますか？
- シールやスタンプ、ポイントは？

子どもが喜ぶ対応
問題を起こすより、子どもにとってお得な対応
ほめことばは具体的な台詞を

ギリギリ許せる行為への対応

- 子どもが満足する対応
  注目しない対応？ or ことば掛け（どんなことば？）
- 「望ましい行動」の場合より控えめに
  やり過ぎないこと
- ほめるより「認める」

トークンシステム

- 約束を守ったりきめられた活動をするとポイントがもらえる
  シール、スタンプなど（家庭と協力）
- ポイントをためると数に応じたごほうびや権利がもらえる（できるだけ特典を使用）
  クラスでの表彰、全校集会での表彰など
- 特典を与え、できた（守れた）ことをしっかりほめること

目の前の楽な行為に逃れる→ トークンですばやくご褒美(褒める)

問題行動にできること

- 選択肢
  見ないようにする（注目しない対応）
  ルールや約束を繰り返す
  場所を変えて話す(タイムアウト)
    ただ聞くだけ
    ルールの確認
    誰が対応する？
  問題を起こしていないことを評価する
  うまくいっている対応は続ける

ここでチェック

- 実施可能な事前の工夫がなされていますか？
- 望ましい行動、ギリギリ許せる行動それぞれに子どもが喜ぶ対応がなされていますか？
- 問題行動への対応は、どのように変えましたか？
- 増やす行動、減らす行動は何ですか？

対応する人をきめる

- 「事前の対応、誰が担当しますか?」
  ルール確認、話し合い
  支援教材の作成・提示
  ソーシャルスキルトレーニングなどの練習・訓練
- 「事後の対応、誰が担当しますか?」
  褒める、認める
  ポイントの提供、ご褒美の提供
  タイムアウトなど、問題行動への対応

子どもの気持ち
悔しい、言われたくない、ちゃんとやればよかった

事前の対応	目標	事後の対応
先生がメンバーに助言 先生と約束 メンバーと約束 サッカーの練習 お気に入りの選手のプレイを見る	望ましい行為 「ごめん、次がんばる!」	仲間から「ドンマイ」 こらえたことを賞賛(先生) 父も褒める
	ギリギリ許せる行為 「だる~!」 土を蹴る、ゴールポストをたたく	こらえたことを賞賛(先生)
	問題行動 暴言・暴力	ルールを確認 イエローカード (見回りの先生)

話し合い

- 増やす行動、減らす行動はどうなりましたか?
  記録から傾向を分析　エピソードも
- 対応は変える?変えない?
  変えるとすれば増やすのか、減らすのか(やめるのか)
- 情報の共有
  本人、保護者への伝え方

今後、どういう機会を利用して(設定して)
話し合うかきめましょう!

ここでチェック

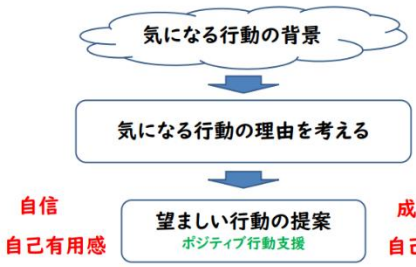
- 実施可能な事前の工夫が書かれていますか?
- 望ましい行動、ギリギリ許せる行動それぞれに子どもが喜ぶ対応が書かれていますか?
- 問題行動への対応は、どのように変えましたか?
- 増やす行動、減らす行動は何ですか?

環境面での工夫

- 授業構成の工夫
  授業の流れを示す、狙いや活動を絞る、全員参加を意識
- 指示、説明、発問の工夫
  簡潔化、具体的、肯定的表現、活動がイメージできる表現
- 視覚情報活用の工夫
  きれいな黒板、視覚教材の利用、動作化、環境の構造化
- 認め合う学級集団づくり
  ともに学ぶ喜びの育成、適切な机間指導、子どもが主体

気になる子どもへの支援方法はその他の子どもにも効果的!

これからの支援



柔らかな声掛け

- 怒ったような声、ヒステリックな声になると子どもの不安が増す
- 特に虐待、DVの可能性がある家庭の子は、フラッシュバックなどの可能性も
- 指示はCCQPで！
- C（Calm おだやかに）、C（Close 近くで）、Q（Quietly 静かに）、P（Positive 肯定的に）の略

ポジティブな言葉をかける

- ポジティブな言葉を、ある一定の期間復唱し続けると他者への共感力がはぐくまれる
- 実際に最新の研究結果では、そのようなトレーニングによって、大脳新皮質の厚みが増し、闘争・逃走反応を引き起こす扁桃体を縮小されることが明らかになっている

出典：親にダメと言われた子どもは将来「共感力が低くなる」と判明！

教育における「ほめる」とは

- 一般的な意味での「ほめる」とは感心する、励ます、感謝することです
- 教育における「ほめる」とは、どんなに些細な事でも、子どもの良い行動や良い変化に肯定的注目を与えることです
- これからもやらせようとして、大げさに感心したり、励ましたり、感謝したりすることではありません

ほめるときのコツ

① 近くに寄り
② 子どもの目を見て
③ 声を明るく
④ 表情豊かに
⑤ 動作も含めて
⑥ 子どもの行動をほめましょう！

＊わが子にあったほめ方を工夫しましょう

こんなほめ方をしていませんか？

① ランドセル、ちゃんと机におけたね
② ありがとう！明日もお願いね
③ 今日は頑張ってるやん
④ 花丸や！これからもこの調子やで

感情的な指示

- 何度言っても、子どもが「やらない・やめない」とき、どうしても大きな声で指示しがちになります
- 感情的な指示は感情だけが伝わります
- 教育（指導）エネルギーの無駄使いです

①まず深呼吸して、自分の気持ちを確かめましょう
②遠くから大声で言うのではなく、近づいて
③子どもの注意を引きましょう
④子どもと視線を合わせて
⑤やるべき・やめるべきことを、行動として短く具体的な言葉で伝えましょう
⑥口調はきっぱりと、断定的な、しかも落ち着いた声で言いましょう
⑦「～してちょうだい」のお願いや「～しない？」という質問形式はやめましょう
⑧「～しなさい」「～しましょう」と宣言形式で言いましょう
⑨どんな小さなことでも子どもが従おうとしたことは、そのことに気がついたことをすぐに伝えましょう
例）微笑む、うなずく、「そうやね」、「ありがとう」

注意

- 視線を合わせるのが苦手な子どもの場合は、無理に視線を合わせず、注意が自分に向いていることを確認しましょう
- 子どもの発達特性や年齢に合わせてやり方を工夫しましょう

ハッピーライフのために

- 禁止や叱責のみで子どもの行動を変えようとするのではなく、正しい行動をポジティブに教え、正当に評価されることでいい子にしましょう！
- そして、ポジティブになった自分を心からほめましょう！
- 支援者も子どももポジティブになることでハッピーライフを手に入れましょう！！！
- そして、成人後の幸せのため適応行動も高めましょう！

子どもたちの笑顔のために

- 大人の怒っている顔の向こうには子どもの笑顔はありません
- 子どもたちのつらい過去の経験は変えることはできませんが、今を幸せにすることで未来を変えることは可能です！
- そのためにも、自己肯定感を高めるアプローチを始めましょう！
- 今日から少しずつ、無理せずやりましょう！

講演会資料

「子どもの自己肯定感を育む教育実践」

梅花女子大学　伊丹昌一　教授

チャレンジ&エレガンス
梅花女子大学
BAIKA 1878

子どもの自己肯定感を育む教育実践

梅花女子大学／大学院
伊丹昌一

自己肯定感

- そのままの自分を認め受け入れ、自分を尊重し、自己価値を感じて自らの全存在を肯定する「自己肯定感」の感覚は、「自分は大切な存在だ」「自分はかけがえのない存在」だと思える心の状態
- 自分は尊重するが、相手や周りは、尊重しない、自分の価値は認めるが、相手の価値は認められない、どちらかというと自分さえよければいいと身勝手な思考、行動をとりやすい傾向の人は「自己肯定感」が高いとは言えない

日本セルフエスティーム普及協会

自己肯定感の高い子

- 何事にも積極的に行動することができ、失敗しても落ち込みすぎず、「どうすればよいのか」と考えて次に活かすことができる
- 自分を大切に思う感覚があるため、人と自分を比べて落ち込んだり、妬んだりすることなく、周りの人に思いやりを持って接することができる

自己肯定感の低い子

- ネガティブなことを言い、自分自身に批判的
- 自分のダメな部分に焦点を合わせ、自分の良い面を無視する
- 物事がうまくいかないときに自分を責める
- 他の人が自分よりも優れていると思う
- 自分は楽しむ価値がないと思っている
- ほめ言葉を受け入れない
- 失敗を恐れて挑戦を避ける
- 不承認や批判に過剰に動揺する
- 過剰に落ち込む、恥ずかしがる、怖がる、怒る

自己肯定感と似た感情

- 自己受容
- 自己有用感
- 自己効力感
- 自尊感情

自己受容

- 自己受容とは、自己肯定感のさらに土台となっている力のこと
- 本当の意味で、自分を認めるためには、自分のいいところを認めるだけではなく、ありのままの自分全てを認めることが大切

一般社団法人日本GHCDコーチング協会

自己有用感

- 他者の存在を前提として自分の存在価値を感じること（自分に対する他者からの評価）
- 誰かの役に立ちたいという成就感
- 誰かに必要とされているという満足感
- 類似の言葉に「自己肯定感」があるが、「自己有用感」は「自己肯定感」と比べ、他者の存在を前提としているという点に違いがある

北島貞一「自己有用感 ー生きる力の核ー」, 田研出版, 1995

自己効力感

- 自己効力感とは、目標を達成するための能力を自らが持っていると認識すること
- 「自分ならできる」「きっとうまくいく」と思える認知状態
- 発達性学習症特性のある子は特に低下させやすい

https://mba.globis.ac.jp/careernote/1302.html

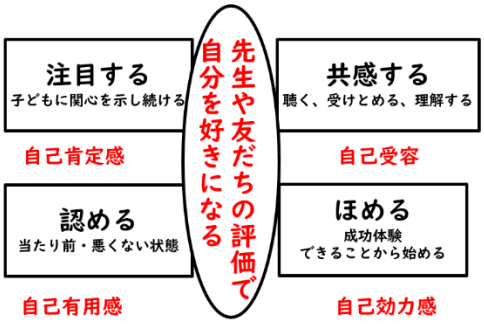
二つの学力

- 高次の学力（考える力）
- 低次の学力（単純に読む・書く・計算するといったスキル）
- 昭和の時代は発達症の理解がなく、スキルの低い子はダメな子のイメージ
- 無駄な努力よりも合理的配慮の視点を
- 二次的な問題としての学習性無力感を予防

意欲があれば人はどこまでも伸びる！

- 楽しい！ できた！ ➡意欲
- 人の原動力は意欲
- 意欲は人を徹底的に強くたくましくする
- 能力があるだのないだの関係はない
- 意欲は能力を超える!!

自尊感情を高めるかかわり



事例から考える自己肯定感

Aさん

- Aさんは、担任が褒めても「当然のことなので・・」とあまり喜ばなかったり、「なんでそんなことで褒めるの！」と逆に怒り出したりすることもあります。こんな時はどう褒めればよいですか。また、言葉で褒める以外に有効な方法はありますか。

教育における「ほめる」とは

- 一般的な意味での「ほめる」とは感心する、励ます、感謝することです
- 教育における「ほめる」とは、**どんなに些細な事でも、子どもの良い行動や良い変化に肯定的注目を与えること**です
- これからもやらせようとして、大げさに感心したり、励ましたり、感謝したりすることではありません

ほめるときのコツ

① 近くに寄り
② 子どもの目を見て
③ 声を明るく
④ 表情豊かに
⑤ 動作も含めて
⑥ 子どもの行動をほめましょう！
＊わが子にあったほめ方を工夫しましょう

認める

- 教育においては当たり前の行動もほめる対象となります（**＝認める**）
- しかし、当たり前の行動をほめられた子どもには当たり前のことができていなかったんだと気づかせることになるので、その行動に私たち支援者が気付いているという反応で可（**実況中継**）

認めるとは

- **出来ている行動を言葉にする**

⇩

- 実況中継

Bさん

- Bさんは、指導や指摘にとても敏感です。できていないところをアドバイスしようとしても、聞き入れることができません。また、不適切な行動を注意すると泣いてパニックになります。他の子どもが指導されていても過剰に反応します。できていないところを指導する場合、どうすればよいですか。

効果的な指示

- 何度言っても、子どもが「やらない・やめない」とき、どうしても大きな声で指示しがちになります
- 感情的な指示は感情だけが伝わります
- 教育（指導）エネルギーの無駄使いです

①まず深呼吸して、自分の気持ちを確かめましょう
②遠くから大声で言うのではなく、近づいて
③子どもの注意を引きましょう
④子どもと視線を合わせて
⑤やるべき・やめるべきことを、行動として短く具体的な言葉で伝えましょう
⑥口調はきっぱりと、断定的な、しかも落ち着いた声で言いましょう
⑦「～してちょうだい」のお願いや「～しない？」という質問形式はやめましょう
⑧「～しなさい」「～しましょう」と宣言形式で言いましょう
⑨どんな小さなことでも子どもが従おうとしたことは、そのことに気がついたことをすぐに伝えましょう
例）微笑む、うなずく、「そうやね」、「ありがとう」

注意

- 視線を合わせるのが苦手な子どもの場合は、無理に視線を合わせず、注意が自分に向いていることを確認しましょう
- 子どもの発達特性や年齢に合わせてやり方を工夫しましょう

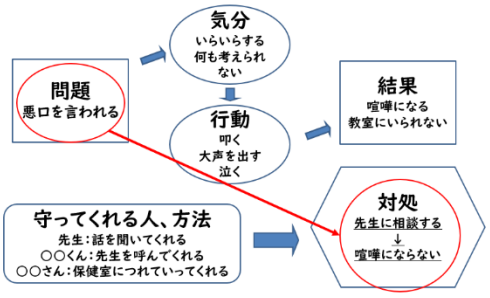
Cさん

- Cさんは、思考や言動がネガティブなものが多いです。自分の失敗が許せなかったり、「どうせ自分なんか・・」など自己否定の発言が多かったりします。過去の出来事を思い出して負のスパイラルに入ってしまい抜け出せないこともあります。どのように言葉かけすればよいですか。

カウンセリングマインドを大切に

- 傾聴：質問責めにしない、すぐに答えを返さない
- 受容：指導したり、否定的に対応したりしない
- 共感：相槌、うなづき、繰り返し
- 尊敬：自分で問題を解決できる力を持つと信じる
- 思いやり：ほほえみ、しぐさなどの非言語メッセージで表現されるもの

解決方法を視覚化する（認知行動療法）



Dさん

- Dさんは、不登校です。自己イメージと現実にずれがあるようで、たまに登校してきても自分が思ったようにできないと落ち込んで、また登校できなくなります。何かよい支援の方法はありますか。

不登校

- 不登校とは、何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあること（ただし、病気や経済的な理由によるものを除く）
- 学校不適応対策調査研究協力者会議（平成4年）
- 年間30日以上の欠席

不登校の傾向分析

「不登校に関する実態調査」文部科学省、平成26年7月9日

- 不登校の継続理由から「無気力型」「遊び・非行型」「人間関係型」「複合型」「その他型」の5つに類型化することができる（低学年は母子分離不安）
- 不登校時期の分析により、一旦欠席状態が長期化するとその回復が困難である傾向が示されている
- 学校を休み始めた時期と長期化した時期との間にタイムラグが生じていることから、一定の「潜在期間」を経て不登校になることが推測される
- 不登校のきっかけと不登校の継続理由、中学校3年時にほしかった支援と現在必要とする支援との間の関連性は、非常に強い

不登校児童生徒への支援の視点

- 不登校児童生徒への支援は、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、社会的に自立することを目指す必要がある
- 不登校の時期が休養等の積極的な意味を持つことがある一方で、学業の遅れや進路選択上の不利益等が存在することに留意する

誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策
（COCOLOプラン）

1. 不登校児童生徒が学びたいと思った時に学べる環境の整備
2. 不登校児童生徒の保護者への支援
3. 早期発見・早期支援のための福祉部局と教育委員会との連携強化
4. 学校の風土の「見える化」

学びたいと思った時に学べる環境の整備

（1）不登校特例校の設置
（2）校内教育支援センター（スペシャルサポートルーム等）の設置
（3）教育支援センターの支援機能等の強化
（4）教室以外の学習等の成果の適切な評価の実施
（5）柔軟な学級替えや転校等の対応
（6）高等学校等の生徒を含めた支援
（7）改めて中学校等で学び直すことを希望する者への支援

Eさん

- Eさんは、学校ではそれなりに頑張って教師から褒められることもあるのですが、家に帰ると保護者から認められず、褒めてもらえることがほとんどありません。保護者と話をしても「うちの子はだめです」と否定的な反応しかありません。このような保護者とどのように関わっていけばよいでしょうか。

保護者への支援

- 保護者が悩みを抱えて孤立せず、適切な情報や支援を得られるようにすることが重要
- 教育支援センターや相談機関、保護者の会、フリースクール等の民間施設や多様な居場所等に関する相談窓口を設け、必要な情報を整理し提供することが求められる

ペアレントトレーニング

- 子どもの行動を理解し観察する力、かかわるスキルを養う
- 親子間の適切な向き合い方を考える
- 子どもの発達にあわせたルール作り
- ほめることで変わる子どもの変化を実感する
- 厳しく対処する以外の方法を体感する
- 母親が孤立しないことの重要性を認識する

ペアトレ短期バージョン

第1回	子どもの性格ではなく、行動に着目しましょう！
第2回	肯定的注目によって望ましい行動を持続させましょう！
第3回	否定的注目を与えないことで望ましくない行動を減らしましょう！
第4回	適切な指示の与え方を学びましょう！
第5回	子どものつまずきとその対応方法（必要な手助け・環境調整・急がば回れ作戦など）を学びましょう！
第6回	制限と罰の適切な与え方を学びましょう！

中田洋二郎、2023 参照

ハッピーライフのために

- 禁止や叱責のみで子どもの行動を変えようとするのではなく、正しい行動をポジティブに教え、正当に評価されることでいい子にしましょう！
- そして、ポジティブになった自分を心からほめましょう！
- 支援者も子どももポジティブになることでハッピーライフを手に入れましょう！！！
- そして、成人後の幸せのため適応行動も高めましょう！

子どもたちの笑顔のために

- 大人の怒っている顔の向こうには子どもの笑顔はありません
- 子どもたちのつらい過去の経験は変えることはできませんが、今を幸せにすることで未来を変えることは可能です！
- 高いハードルは飛び越えようとせず、くぐりましょう！
- 子どもに100点を求めるのではなく、100%の努力を求めましょう！

お わ り に

新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が出されてから、私たちの生活・くらしはどうなってしまうのだろうかと不安がつのる時期がありました。昨年５月８日に新型コロナウイルス感染症の５類感染症への位置づけ変更後、私たちは様々な他者や社会とのかかわりやつながりを求めて新しいくらし方を始めました。

ICT やその他の分野で新しい技術がものすごいスピードで開発され、私たちのくらしに浸透していっています。例えば家族や友だちと外食に出かけた飲食店でタブレット型端末による注文に戸惑ったり、電車やバスに乗って通学、通勤や休日の余暇活動に出かけようとすれば、今や現金で切符を買って乗車するよりも IC カードの利用やスマートフォンによるタッチ決済を行うことが多くなってきています。それらの新たな技術の進歩に子どもたちはもちろん、大人たちもときに翻弄されたり、ときに便利さに感動したりと様々な感情の揺れを経験しながら日々の生活を送っています。

以前から支援学校の子どもたちの障がいの多様化、重度化が進んでいることが指摘されています。その一方で障がいによる困難さに立ち向かう芯の強さが子どもたちにあることも私たちは日々の学校生活の多くの場面で見てきています。様々な価値観を持った人と人とがかかわりやつながりを求めるようになったアフターコロナの社会でこそ、自己肯定感を高める教育に取り組んできた摂津支援学校で学んだことが子どもたちにとって役に立つと考えます。逆に、不透明な未来社会で子どもたち一人ひとりが生き生きと活躍できる力を伸ばすことができるようになるための教育に私たちは今後も取り組んでいかねばなりません。様々な価値観を持った方々にこの研究紀要をお読みいただき、共感や新たな提案をいただければ、摂津支援学校と人々とのかかわりやつながりが、いっそうひろがったり、強くなったりするのではないでしょうか。

最後に、本校での講演会で講師としてご講演いただき、その資料まで研究紀要に掲載することにご快諾いただいた梅花女子大学　伊丹教授に感謝申しあげます。また小誌をお読みいただいた皆様には、今後ともご意見・ご指導賜りますよう、どうぞよろしくお願い申しあげます。

教頭　　和田　泰英